

新しい指導要領と美術科

はじめに

新しい学習指導要領は、教科目標の実現を図るために、「発想や構想の能力」、「創造的な表現の技能」、「鑑賞の能力」など各学年で育成する資質・能力をもとに内容を整理し直し、領域主義的、作品主義的な授業の改善を図っていくとするものです。これまでの学習指導要領が目指してきたことを大切にしながら、教科指導の目的と手段の明確化を行ったものであり、後述するように、いくつかのポイントがありますが、全体として極端な違いがあるわけではありません。したがって、これまで行ってきた題材や年間計画を、新学習指導要領の視点で見直すことは、現在の指導を改善していくことに結びつくものと考えられます。

以下に示すのは、新学習指導要領の特徴を3つに整理したものです。

■美術に関する生徒の資質や能力を育てることが目的として明確化された

これまでの中学校美術科学習指導要領における第1学年のA表現(1)の内容を見ると、「スケッチすること」「主題を発想すること」「構想を練ること」「形や色彩の表し方、ものの見方や形態の表し方、材料や用具の生かし方などの基礎的技術を身に付けること」「美しく生き生きと表現すること」など絵や彫刻などに表す活動を通して生徒に身に付けてほしい能力に関わる経験が並記されています。しかし、学校現場の実情を見ると、絵や彫刻などに表す活動事態が目的化され、これらのことを通して各学年で育成する資質・能力への視点が曖昧になってしまっているケースが散見されるという事態もありました。

そのため、新しい学習指導要領（平成20年改訂）では、「絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。」「発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して技能に関する次の事項を指導する。」というように指導の目的を明示し、これに続けて指導事項を示すことによって、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して美術に関する生徒の資質や能力を育てる」という基本理念を改めて共有できるようにしています。各校においては、現行の年間計画やそこに配列される各題材が、生徒の学習過程における発想や構想を引き出すものであるか、創造的な技能を獲得したり、鑑賞の能力を発揮したりできる条件を備えたものであるかどうかを確かめながら、生徒の資質・能力を伸ばすという視点から、三年間を通じてバランスのとれたカリキュラムを練り上げていく必要があります。

■美術科のあらゆる学習活動を通して指導する〔共通事項〕が示された

小学校低、中、高学年と中学校という発達の段階に応じて示された〔共通事項〕は、図画工作科や美術科の学習に欠くことのできないエッセンスであり、義務教育9年間に配列された題材の適切性を吟味する有効な視点として考えることもできます。各校においては、現行の題材を実施する際、そこに繰り広げられる表現や鑑賞の活動が、「形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解すること」や「形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること」という視点にかなったものであるかどうかを吟味しながら、生徒の思考・判断・表現の場を提供することで、指導と評価の適切性を高めていくことができるでしょう。

例えば、A表現(1)の題材として記憶をもとに絵を描く活動の指導にあたって、単に「心に残る情景を描こう」というだけでなく、「そのとき感じた雰囲気や季節感を大切に心に残る情景を描こう」という、踏み込んだ捉え方を進めることによって、形や色彩がもたらす感情に対する意識を喚起するなど、生徒の見方や感じ方を深めていくことが大切になっ

てきます。

■教科目標に「美術文化についての理解を深める」という視点が加わる

教科目標に「美術文化についての理解を深め」という文言が追加されたことは、教育基本法に示された教育の目標に「伝統や文化を尊重する態度」が明示されたことなどに連動するものですが、今後は、「B鑑賞」の学習の全体的な充実を図る中で、このことも含めた鑑賞の能力の伸長を図ることが大切になってきます。

今回の学習指導要領では、鑑賞の活動を通して生徒自らが意味や価値をつくり出す創造的鑑賞と、我が国の美術や文化に関する学習が重視され、第1学年では「思いや考えを説明し合う学習」や「美術文化に対する関心を高める学習」、第2学年及び第3学年には、「自分の価値意識をもって批評し合う学習」や「美術文化の継承と創造への関心を高める学習」などが指導内容として示されています。

また、新学習指導要領における鑑賞の内容に関しては、総則編に示された言語活動の充実や、美術科の教科目標に示された重点としての美術文化に関する学習の他、自然や身近な環境に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解する学習が重視されています。

各校においては、A表現との関連を図りつつ、三年間を通じて意図的計画的に鑑賞の機会を十分に保証し、生徒の鑑賞の能力を高めていく実践を積み重ねることが大切です。

■指導計画の作成と内容の取扱いに関して

3つのポイントにしたがって、現行の年間指導計画や題材を見直し、指導と評価の工夫・改善を進めるには、各校の実状に応じて中学校3年間を見通し、バランスのとれた指導計画を策定していくことが大切です。

次に示すのは、新学習指導要領に示された「指導計画の作成と内容の取扱い」をもとに今後、指導計画策定に際して配慮すべき事項をまとめたものです。

・各学年の内容の「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連を図ります。

例えば、鑑賞題材において「作者の意図や心情について考える学習」は、表現題材において「主題を生み出す力」を高めることとの深い関係があります。一つの題材の中での相互の関連と同時に、題材と題材の間の関連も考えることで、生徒の学習を一層充実したものにできます。

・「発想や構想に関する項目」と「創造的な技能に関する項目」を関連づけます。

絵や彫刻や、デザインや工芸に表すことなどの造形活動では、発想したり構想したりする力と、それらを実現するための創造的な技能とが、相互に働き合うようにさせることで、生徒の学習を豊かなものに練り上げることができます。三つのポイントの一つ目に示した生徒の資質・能力を引き出し、伸ばしていく上で、A表現(1)及び(2)と(3)を関連づけることは欠くことの出来ない条件であるといえます。

・中学校3年間を通じて描く活動とつくる活動のバランスのとれた指導計画を立てます。

中学校1年生に対しては、学習指導要領の「第1学年の内容」を45単位時間という時数の中で全て取り扱わなければならないため、自ずと題材の密度は高くなります。一つ一つの題材にあてる時間配分や年間を通じた題材配列を工夫し、描く活動とつくる活動を適切に構成する必要があります。

題材内容資料

一方、「第2学年及び第3学年の内容」に示されたことは、学習の質の向上を図るために、一つの題材に時間をかけて取り組めるようにする必要もあり、中学校2、3年生を通じた2年間をかけて取り扱いますが、その中で教育内容の調和を図る手立てとして、次のようなルールがあります。

- ① 2学年、3学年の各学年で、「絵や彫刻」と「デザインや工芸」を必ず行います。
- ② 2学年、3学年の各学年で、描く活動とつくる活動を必ず1回は行います。
- ③ 「絵や彫刻」及び「デザインや工芸」を通じた発想や構想に関する指導と、発想や構想を基にした創造的な技能に関する指導を関連づけながら、2学年から3学年の2年間を通じて、描く活動とつくる活動をいずれも扱うようにします。

※表1、表2は、①～③のルールに基づいて、3年間の学習内容のバランスをとるための指導計画の作成例です。

表1：「A表現」の指導計画の作成例Ⅰ

学年	A表現		(2)デザインや工芸に表すことによる発想や構想の指導+(3)創造的的技能		
	(1)絵や彫刻に表すことによる発想や構想の指導+(3)創造的的技能	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年		○	●	○	●
第2学年		○			●
第3学年			●	○	

表2：「A表現」の指導計画の作成例Ⅱ

学年	A表現		(2)デザインや工芸に表すことによる発想や構想の指導+(3)創造的的技能		
	(1)絵や彫刻に表すことによる発想や構想の指導+(3)創造的的技能	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年		○	●	○	●
第2学年			●	○	
第3学年		○			●

・「B鑑賞」の授業時数を十分に確保します。

各校においては、表現活動との関連を考えて鑑賞の授業を位置付けたり、独立した鑑賞の授業を適切に設けたりするなど、各学年の鑑賞の目標を実現するのに必要な授業時数をしっかり確保することが大切です。

・「A表現」と「B鑑賞」を通じて〔共通事項〕が働くように題材を設定します。

三つのポイントの二つ目に示したように、生徒が、〔共通事項〕を十分に活用できる場面を意図的計画的に設けることで、教科としての美術の授業構造をしっかりとさせることができます。

この資料は、新しい学習指導要領の視点を基に、指導計画や題材をどのように捉え直していくかを例示したものです。それぞれの学校で、今行われている美術科の授業を、生徒たちにとって一層楽しく充実したものとす情報としてご活用下さい。

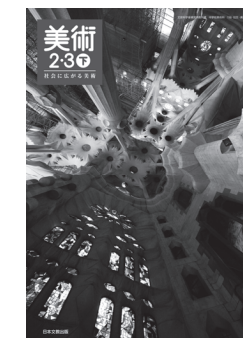
■教科書3分冊の構成



- 美術1**
 感じることから始めて、
美術との出会いや発見の場を広げます。
- 序章 感じる心があるから
 I みる・感じる・つくる
 II 生きる豊かさ・伝え合う楽しさ
 III 世界の広がり・歴史の奥行き
- 小学校から中学校への連結
 見たり触れたり感じ取ったことを自由に表現できる力を育てます。
 身近な生活の中で、美術の動きに気付く視点と構想を練る力を育てます。
 空間的、時間的な想像力を働かせ、視野を広げていく力を育てます。

美術2・3上
 身近な美術への気付きを通して、
 自分を知り、生き方を学びます。

- I 「つながりの」かたち
 II 「生きる」かたち
 III 「伝え合う」かたち
- 自分を知り、他者とのつながりを感じ、自己を表現できる力を育てます。
 デザインや工芸などを通して、生きることと表現には深いつながりがあることを学びます。
 美術で学ぶ伝え合う工夫が、中学生の言語力とコミュニケーション力を充実させます。



- 美術2・3下**
 時間と空間を超えて、
社会や世界に広がる美術を体験します。
- I イメージの力
 II 社会の中で
 III 文化 受けつぎ・つくる
- イメージを表すことを体験し、美術を通して社会に働きかける力を育みます。
 美術における表現する力と、社会や環境との関係性を考えます。
 日本と世界の文化を知り、未来に開かれた柔軟な視野を身に付けます。

■ 題材内容資料の構成

この資料の「題材内容資料」は下記の内容で構成されています。

ページ全体の「テーマ」・資料で紹介する「題材名」・「配当時間」

各題材の教科書掲載ページ、テーマ、題材名を示しています。配当時間は、学校や生徒の実情に合わせて柔軟な取り扱いができるよう、基本的に幅を持たせて設定しています。

題材の分類

日文的教科書は、従来の「絵」「彫刻」「デザイン」「工芸」「鑑賞」の骨組みではなく、「中学生の世界観の広がりに合わせて、美術で身につけさせたい力」を考えるとという視点から「個に軸を置く」「身の回りや生活に関わる」「社会や世界につながる」「自然や生命、環境に関わる」4つのテーマを設定し、そのテーマを骨組みに題材設定や構成をしています。

学びのねらい

各題材で生徒が身に付けたい力を示しています。「学びのねらい」は教科書に記載されている文言です。

題材の目標と各題材の主な学習内容

この題材で学習する目標と、学習生徒の活動を中心として授業の流れを追って示しています。

材料・用具

授業に必要な主な材料や用具について示しています。

題材の評価規準の例（B規準）

各題材の観点別評価規準の例を示しています。「おおむね満足できる」状況(B)について記載しています。

(関) 美術への関心・意欲・態度

(発) 発想や構想の能力

(創) 創造的な技能

(鑑) 鑑賞の能力

学習指導要領との関連

○…描く活動での発想・構想 ◇…描く活動での創造的な技能 □…描く活動での鑑賞

●…つくる活動での発想・構想 ◆…つくる活動での創造的な技能 ■…つくる活動での鑑賞

■…単独での鑑賞活動

美術 1 美術との出会い

題材構成の基本的な考え方について

小学校図画工作での学びを、スムーズに中学校美術の学びにつなげる「序章」の設定

小学校「図画工作」での学びとの連続性を大切にするために、「序章」を1年の教科書の冒頭に設け、これから始まる美術の学びへの期待や意欲につなげることができるようにしました。

そのポイントは以下の2点です。

- (1) まず身の回りにある造形的な面白さや美しさなどを、視覚だけでなく触覚など体全体で感じ取ることを出発点におきながら、美と出会い、美術を発見する喜びを中学校「美術」の学びの初めの一步としました。
- (2) 新学習指導要領に示される〔共通事項〕を小学校から中学校への、内容的な連続性の軸としました。

中学生の発達段階を踏まえつつ、3年間の美術の学びの土台となる内容を幅広く網羅

自らの生き方を見つめ、身近な生活や社会に目を向け、さらには自然や生命とのつながりへとその関心を広げていく中学生の発達段階を踏まえ、多様な価値と出会い、自己実現に向いながら成長していくことを支援できる題材や、中学校3年間の学びを支える基礎的内容を確実に学び取ることができる題材を幅広く取り上げるようにしました。

- (1) 身近な人をスケッチしたり、身の回りの動植物を表現したりする題材から「身近な人、物への愛着」や「生命の大切さ」を学びます。
- (2) 感じたままに手を動かし生み出していく「感じる心があるから…」や、「いろいろなスケッチ」「手でつくる心」など、目と手と心を動かしながら基礎的事項を学び取っていくことのできる題材を取り上げています。
- (3) 〔共通事項〕の考え方を踏まえて、「色を学ぶ」「色の性質」といった色彩についての基礎的事項と関連付けて学ぶことができるように紙面構成の工夫をしています。
- (4) 「焼き物」など、じっくり時間をかけて取り組みたい題材を2・3年生と比べて時間数の多い1年で取り上げています。
- (5) 「残された造形」や「アジアの形や色彩」「『和風』を味わう」など、表現と鑑賞の学習をシームレスにつなげ、幅広い美術文化により深く触れ、理解していくことができる題材設定の工夫をしています。

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
I みる・感じ取る・つくる	P8-9 感じたことをそのままに -身近なものから感じ取ったことを自由に表そう- 身近な風景や自然を見て表そう (1~2) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●見たり触れたりして感じ取ったことから発想しよう。 ◆感じたことを材料や表現方法にとらわれずに自由に表そう。 ■身近なものや風景と素直に向き合い、その美しさを味わおう。	題材の目標 見慣れた風景や身近な自然物から感じ取った新鮮なイメージを大切に、思いのままに表す。 主な学習内容 ○身近な風景や自然物から美しさを感じ取る。 ○身近な風景や自然物から自分が感じ取ったことをみんなと話し合う。 ○身近な風景や自然物から自由に絵や立体に表す。	画用紙 枝 加工粘土 へら 粘土板 絵の具 クレヨン	(関) 身近な風景や自然から感じ取ったことを基に表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 (発) 身近な風景や自然から感じ取ったことを基に主題を生み出し、全体と部分の関係を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具を生かしながら、創意工夫して表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り見方を広げている。	○		◇	□	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
	P 10-11 いろいろなスケッチ -知る、考える、伝える- 知るためのスケッチ 考えるためのスケッチ 伝えるためのスケッチ (2~4) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●いろいろなスケッチを通して観察したり、構想したりしてみよう。 ◆目的に応じて、描き方や材料を工夫してスケッチしよう。 ■表されたスケッチから、作者の思いや意図を感じ取ろう。	題材の目標 いろいろなスケッチがあることを理解し、自分たちの表現活動の場面で目的に応じたスケッチを描けるようにする。 主な学習内容 ○自分で見つけたことや発見したことをスケッチで表す。 ○自分で考えたアイデアをスケッチで表す。 ○自分が感じた伝えたいことをスケッチで表す。	画用紙 モチーフとなるもの 虫眼鏡 加工粘土 針金 スケッチブック 鉛筆 絵の具 色鉛筆	(関) いろいろなスケッチをすることに関心を持ち、主体的に主題を生み出したり、目的や機能を考えたりして、構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせてスケッチすることにより、対象を見つめ感じ取った形や色彩の美しさなどを基に主題を生み出したり、目的や条件などを考えたりしながら、美的感覚を働かせ、全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫したり、心豊かに表現する構想を練ったりしている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、スケッチの目的に応じて材料や用具を生かし、見通しを持って、創意工夫して表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り見方を広げている。	○	○	◇	□		
	P 12-13 自然の形や色 -自然物の特徴や美しさをもとにして- 季節感を豊かに表そう (4~6) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●自然物を観察し、形や色の特徴や美しさから発想を広げよう。 ◆表したいイメージにふさわしい表現を工夫しよう。 ■自然物や生活を豊かに彩る造形によさや美しさを味わおう。	題材の目標 自然物から感じ取ったイメージやその形や色彩の特徴を生かして表現することで、自然物と造形との関わりを学ぶ。 主な学習内容 ○自然の様々な美しさを基に、表現したいイメージを広げる。 ○自然の美しさ、季節感を大切にその特徴をみんなと話し合う。 ○身の回りの日用品や工芸品には、自然物が生かされたものがたくさんあり、それらのよさをみんなと話し合う。	画用紙 絵の具	(関) 自然の形や色彩から感じ取ったことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり絵の具を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、自然を見つめ感じ取った形や色彩の美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて絵の具を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、自然の形や色彩に見られる造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と自然の形や色彩を基にした表現の工夫などを感じ取り見方を広げている。	○		◇	□		
	P 14-15 自然の表情 -空の変化や風の気配を感じて- 風の表情をとらえる (4~6) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●自然の表情から感じ取ったことをもとに、表現の構想を練ろう。 ◆表現意図に合わせて、形や色、材料などを工夫して表そう。 ■自然の表情をもとにした作品から、作者の思いや表現の工夫を感じ取ろう。	題材の目標 自然の表情から感じ取ったことや、自然との関わりの中で考えたことから主題を生み出し、発想・構想し、形や色彩、材料などを工夫して絵や立体で表す。 主な学習内容 ○風の表情を感じ取り、自分が感じる風について考え主題を生み出す。 ○自分の感じる風のイメージを形や色彩、材料などの表現効果を意識してスケッチなどに表す。 ○材料や表現方法を工夫し、形や色彩で表現する。 ○表現した作品を身近な場所に展示し、思いや考えを話し合う。	針金 ビーズ 流木 貝殻 鉛筆 色鉛筆 スケッチブック カラーセロハン テグス など	(関) 空や風などが作り出す自然の表情から感じ取ったことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり絵の具や写真を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、自然の表情から感じ取った形や色彩の美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて絵の具や写真を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、自然の形や色彩に見られる造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と自然の形や色彩を基にした表現の工夫などを感じ取り見方を広げている。	○	●	◇	□		

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
I みる・感じる・つくる	P 16-17 小さな生命を見つめて —身近な動植物を観察して表そう— 身近な生命を表そう (3~6) [箇に軸を置く] [自然・生命・環境]	●対象の形や色彩、動きなどの特徴から発想を広げよう。 ◆材料や技法の特徴を生かして、対象の生命感を表そう。 ■形や色彩などの表し方の工夫を感じ取りながら、作品のよさを味わおう。	題材の目標 身近な生命を見つめ、形や色彩、動きなどの特徴を捉え、生命の温もりやたくましさ、豊かさを感じ取り表現する。 主な学習内容 ○身近なところにある生命を見つめ、自然のたくましさや温かさ、豊かさを感じ取る。 ○デューラーの野ウサギの作品の鑑賞から、形や色彩、質感などの表現効果を感じ取り、自分の表現を考える。 ○形や色彩、動きなどの特徴を捉え豊かに表現する。 ○日本の美術作品などに表された小さな生命を鑑賞し、人と自然との関係について学ぶ。	画用紙 加工粘土 へら 粘土板 鉛筆 スケッチブック	(関)身近な生命を見つめて表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり絵の具や身近にある材料を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、身近な生き物や植物を見つめ感じ取った形や色彩の美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分の関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて絵の具や身近にある材料を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、身近な生命を見つめた表現の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り見方を広げている。	○ ●		◇ ◆	□ ■	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
	P18-19 顔をつくる —さまざまな材料や技法を使って— コラージュで表してみよう (2~4) [箇に軸を置く] [自然・生命・環境]	●顔をよく観察し、顔に見立てられるものなどから発想を広げよう。 ◆さまざまな材料や技法を使い、形や色彩の組み合わせを工夫しよう。 ■顔をテーマにした作品の発想や表現方法を学び取ろう。	題材の目標 誰でも簡単に、形や色彩の組み合わせや、様々な材料や技法を工夫して、表情豊かな顔を表すことができることを知り、自分でも表現してみる。 主な学習内容 ○顔を表現した様々な作品から、顔の表現にはいろいろな方法があることを感じ取る。 ○材料や技法を組み合わせ、表情豊かな顔を表現する。 ○表現した顔の作品を鑑賞し、それぞれの表現方法の工夫などについて話し合う。 ○簡単に顔が表現できることを知り、他の方法でも顔を表現することを試してみる。	紙 写真 鏡 絵の具 鉛筆 身近にある材料	(関)顔の表情を楽しく表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり絵の具や身近な材料を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、自分の顔を見つめ、材料から感じ取った形や色彩の美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分の関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて絵の具や身近な材料を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、身近な材料を生かして表した顔の造形的なよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などを感じ取り見方を広げている。	○ ●		◇ ◆	□ ■		
II 生きる豊かさ・伝え合う楽しさ	P20-21 使いやすさを求めて —暮らしを快適にするデザインを考えよう— 自分にとって使いやすいスプーンを考えよう (4~8) [身の回りや生活] [自然・生命・環境]	●使う人の目的や願いに応じた使いやすい形を考えよう。 ◆目的に応じて、使う材料やつくり方を工夫して表そう。 ■使いやすい工夫されたデザインの特徴や美しさを味わおう。	題材の目標 身の回りのデザインされたものをよく観察し、その特徴や工夫されている点などを捉え、使いやすいデザインを考え表す。 主な学習内容 ○それぞれのスプーンの用途や機能と形の違いについて考え、互いの意見を話し合う。 ○自分にとって使いやすいスプーンとはどのようなものかを考えアイデアスケッチをする。 ○考えたスプーンの形に合った材料や用具を生かし、計画的に制作をする。 ○自分や友だちのスプーンを使ってみて、その作者の意図や思いを感じ取る。 ○生活を豊かにする、ユニバーサルデザインについて考える。	紙粘土 針金 へら やすり ニス ユニバーサルデザインの作品例 絵の具 家にあるスプーン	(関)自分にとって使いやすいスプーンを制作することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり身近な材料や絵の具を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、スプーンの用途や機能、自分の気持ちなどを基に美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて身近な材料や絵の具などを生かし、制作の順序などを考え、見通しを持って、創意工夫して表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、制作されたスプーンの造形的なよさや美しさ、美と機能性の調和などを感じ取り見方を広げている。		●	◆	■		
	P22-23 遊び心 —人の心をくすぐるような遊び心の形— 身近な材料を生かした形 (2~5) [身の回りや生活] [自然・生命・環境]	●人の心をくすぐるような、遊び心あふれる表現を考えよう。 ◆木や金属などの材料を生かし、表現方法を工夫して表そう。 ■作品に込められた作者のユーモアを味わおう。	題材の目標 私たちの生活に潤いを与え、見る人を楽しませる表現とは何かを考え、自分たちでも表現する。 主な学習内容 ○ユーモアやウィット感のある作品を鑑賞し、人の心を楽しくさせるということについて考える。 ○身近な材料を見たり触ったりする中で浮かんだ形や色彩のイメージから、遊び心のある作品を発想し構想する。 ○材料の違いや特徴を生かした遊び心ある作品を制作する。 ○表現した作品を相互に鑑賞し、作品に込めた遊び心について話し合う。	接着剤 針金 絵の具 身近な材料	(関)身近な材料を生かして人の心をくすぐるような遊び心あふれる表現をすることに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、人の心をくすぐるような遊び心を基に美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて木や金属、身近な材料や絵の具などを生かし、制作の順序などを考え、見通しを持って、創意工夫して表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫を感じ取ったり、生活を楽しくする美術の働きに気付いたりしている。		○ ●		◇ ◆	□ ■	

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
II 生きる豊かさ・伝え合う楽しさ	P24-25 文字や形で伝える 一形や色で伝える工夫を考えようー マークのデザインを考えよう (1~5) 身の回りや生活 自然・生命・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●文字の形などをもとに、印象に残るデザインを考えよう。 ◆意図に応じて、材料や構成の効果を生かして表そう。 ■文字やマークの形や色から受ける印象について話し合ってみよう。 	題材の目標 自分の思いや伝えたい内容が相手に分かりやすく印象に残るよう、文字や形や色彩、構成などを工夫して表現する。 主な学習内容 ○文字の形に注目して、その形を楽しむ。 ○文字の形や色彩を生かした、見る人が楽しい表現を考える。 ○身の回りにある情報デザイン、マークについて調べる。 ○自分や学校のイメージに合った形や色彩を考え、身近なマークをいろいろな表現を工夫してつくる。	加工粘土 へら 粘土板 接着剤 絵の具 鉛筆 色鉛筆 身近なマ ークを集 める	(関) わかりやすく楽しく伝える表現をすることに関心を持ち、主体的に構想を練ったり絵の具やその他の描画材を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、自分や学校などのイメージ、見る人の気持ちなどを基に美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて絵の具やその他の描画材を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、デザインされたマークの造形的なよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などを感じ取り、生活におけるマークの働きなどに気付いている。		○	◇	□		
	P26-27 楽しく伝える 一笑顔を引き出すデザインの工夫ー メッセージを楽しく伝える ●飛び出すカードで伝えよう (3~4) 身の回りや生活 自然・生命・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●見た人が楽しくなるような、伝えるためのデザインを構想しよう。 ◆楽しく伝えるための方法や仕組みを考えて表そう。 ■生活を楽しく心豊かにする美術の働きを感じ取ろう。 	題材の目標 見たり使ったりする人の立場や気持ちを考えデザインに表すことを通して、それらは豊かなコミュニケーションを生み出すことを学ぶ。 主な学習内容 ○伝える相手を笑顔にするデザインの在り方について考える。 ○伝えたいことが相手の心に楽しく届くよう、形や色彩、方法や仕組みを考え表現する。 ○包んだり結んだりする工夫について考え、日本に古くから伝わってきた心づかいや知恵があるということを学ぶ。	加工粘土 板 紙 磁石 絵の具 色鉛筆 ペン	(関) 伝えたいことが相手の心に楽しく届くような表現をすることに関心を持ち、主体的に構想を練ったり絵の具や身近な材料を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、楽しく伝えたい内容、そのための方法や仕組みを基に美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて身近な材料や絵の具、その他の用具を生かし、制作の順序などを考え、見通しを持って、創意工夫して表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、メッセージを楽しく伝える表現の造形的なよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などを感じ取り、生活に潤いを与える美術の働きなどに気付いたりしている。		○	◇	□		
	P28-29 手でつくる心 一木の温もりと優しさを感じてー 木の特性を生かしてつくる (6~8) 身の回りや生活 自然・生命・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●木肌や木目の美しさなどを生かした表現の構想を練ろう。 ◆表現意図に応じて加工方法を考え、見通しを持って表現しよう。 ■生活を美しく豊かなものにする、木工芸のよさを味わおう。 	題材の目標 木肌の持つ温かさや優しい感触を味わい楽しみながら、用途に合わせたデザイン、飾るものや使う形について考える。 主な学習内容 ○木という材料の温かさや木肌の美しさを味わう。 ○生活を豊かにする木の形について考える。 ○木が持つ造形加工の可能性について考え、用途や機能に応じた作品を制作する。 ○木を使った作品制作を通して、日本で古くから建築や家具、食器など様々なものに木が使われてきた理由について考える。	木材 彫刻刀 小刀 やすり 紙 鉛筆	(関) 木肌の感触や木目の美しさを生かした表現に関心を持ち、主体的に構想を練ったり木材や絵の具などを生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、木肌の感触や木目の美しさ、見る人や使う人の気持ちなどを基に美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて木肌の感触や木目の美しさを生かし、制作の順序を考え、見通しを持って創意工夫して表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、木肌の感触や木目の美しさや作品の機能性などを感じ取ったり、生活に生きる木材の働きに気付いたりしている。		●	◆	■		

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項		
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ	
II 生きる豊かさ・伝え合う楽しさ	P30-31 土と炎の造形 ー生活の中で使える焼き物をつくろうー ー 使えるものや飾るものをつくろう 焼き物の可能性を求めて (6~8) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●土の味わいを生かして、使うものや飾るものを考えよう ◆土の特徴や性質を理解し、成形方法を工夫してつくろう。 ■身近に置いてみて、作者の工夫を感じ取り、焼き物の魅力を味わおう。	題材の目標 土が持つ感触を肌で味わいながら、自由な発想で生活を豊かにする焼き物をつくる。 主な学習内容 ○身近な焼き物からその用途について考える。 ○使う目的にあった形を考える。 ○土の持つ感触を肌で味わいながら制作する。 ○焼き物が持つ可能性や自分の持つイメージを自由に表す。 ○制作した器を使い、生活を豊かにする工夫を味わう。	食器(陶器・プラスチック) 陶土 ろくろ 粘土板 へら 釉薬 のし棒	(関)生活を豊かにする焼き物を制作することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり粘土や成形のための用具を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、焼き物でつくるものの用途や機能、使用する者の気持ちなどを基に美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて粘土や成形のための用具を生かしたり、制作の順序などを考え見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、焼き物の造形的なよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫、美と機能性の調和などを感じ取ったり、生活に生きる焼き物の働きに気付いたりしている。		●	◆	■			
	P34-35 残された造形 ー太古の造形が語りかけるものー 描かれた原始や古代の絵や文様 偶然できた形から (1~3) 社会や世界 自然・生命・環境	●古代の造形から感じ取った存在感や生命感から発想を広げよう。 ◆光と影の効果や偶然の形を生かし、材料や方法を工夫して表そう。 ■古代の造形に託された思いについて話し合ってみよう。	題材の目標 古代の人々が生み出した造形から発想をふくらませ、表現することの意味や、人間の想像力の素晴らしさを感じ取る。 主な学習内容 ○描かれた古代の絵や文様から表現の意図や工夫を感じる。 ○光や影の効果や偶然の形を生かして材料や表現を工夫して表す。 ○古代の造形に託された思いについて、互いの意見を交換し合う。 ○美術が与える「未来予想図」について、互いに話し合う。	紙 懐中電灯 絵の具 スパッタリングの道具	(関)古代の造形から感じ取ったことを基に表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、古代の造形を見つめ感じ取った形や色彩の美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分の関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて絵の具や粘土、身近な材料を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、古代の造形から感じ取ったことを基にした表現の造形的なよさや美しさ、作者の表現の工夫などを感じ取ったり、古代の美術文化の特性やよさなどに気付いたりしている。	○	●	◇	□			
	P36-37 「和風」を味わう ー暮らしに生かす日本の形や色ー 身近で探す「和風」 地域の伝統を取り入れて表そう (1~6) 社会や世界 自然・生命・環境	●日本の伝統的な装飾や表現様式を学び、作品の構想を練ろう。 ◆作品の完成をイメージして、制作の過程を考えてつくろう。 ■日本の伝統的な生活文化を鑑賞し、そのよさなどを感じ取ろう。	題材の目標 日本の伝統的な形や色彩の特徴を暮らしの中から「和風」として感じ取り、自分の表現に生かす。 主な学習内容 ○日本の伝統的な形や色彩の特徴やよさについて考える。 ○日本の美における形の単純化や連続性について知る。 ○地域の伝統的な工芸品や、身近な和風について意見を交換し合う。 ○地域の伝統的な表現や技法を自分の表現に取り入れ、使うものや伝えるものをつくる。	インク 布 スタンプ 彫刻刀 和紙 竹 紙 鉛筆 染料 のり 地域の伝統工芸品	(関)日本の伝統的な形や色彩の特徴などを生かして表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、日本の伝統的な形や色彩の特徴やつくるものの用途や機能、使用する者の気持ちなどを基に美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて和紙や竹など日本の伝統的な材料を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、日本の伝統的な形や色彩の特徴のよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などを感じ取ったり、生活に根付く美術文化の特性やよさなどに気付いたりしている。		○	●	◇	□		

形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
Ⅲ 世界の広がり・歴史の奥行き	P38-39 アジアの多様な美術 ー鮮やかな形と色彩の世界に触れようー アジアの形や色彩をもとに表そう (2~5) 社会や世界 自然・生命・環境	● 心をひかれた形や色彩の特徴をもとに、表現の構想を練ろう。 ◆ 形や色彩の組み合わせや、表現方法を工夫しよう。 ■ アジアの多様な美術の魅力や造形的な特色について話し合おう。	題材の目標 アジアの人々の生活の中で息づいてきた伝統的な美術の魅力を味わう。 主な学習内容 ○アジアの国々に伝わる仮面を鑑賞し、その造形的な魅力について話し合う。 ○アジアの工芸品に見られる優れた技術を知り、その魅力について話し合う。 ○アジアの形や色彩を図書館やインターネット等で調べ、その特徴を生かし、自らの表現に取り入れた作品を制作する。	資料 画用紙 パステル 墨 のり 絵の具 鉛筆 色鉛筆 ペン	(関) アジアの人々の生活の中で息づいてきた伝統的な美術から感じ取ったことを基に表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、アジアの人々の生活の中で息づいてきた伝統的な美術を見つめ感じ取った形や色彩の美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分の関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて絵の具などを生かしたり、制作の順序などを考え、見通しを持ったりしながら、創意工夫して表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、アジアの多様な美術の造形的なよさや美しさ、生活に息づく美術の働きなどを感じ取り見方を広げたり、アジアの伝統的な美術文化の特性やよさなどに気付いたりしている。	○		◇	□ ■	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
	P40-41 光の美しさを求めて ー自然の光を感じて表そうー 光をとらえて表そう (2~7) 社会や世界 自然・生命・環境	学びのねらい ● 自然の光の美しさから感じ取ったことをもとに発想を広げよう。 ◆ 表現方法を工夫し、色彩の効果を考えて光の美しさを表現しよう。 ■ 自然の光をとらえた作品から表現の工夫を感じ取ろう。	題材の目標 私たちの世界を彩る自然の光の美しさを感じ取り表現する。 主な学習内容 ○身近な風景や場面から、光のつくる明るさや影、光によって変化する印象を考える。 ○美術作品の鑑賞を通して、光が与えた表現の可能性や工夫、意図などを話し合う。 ○光によって変化する風景や場面を見て感じ取った印象を色や材料、表現方法を工夫して表す。	画用紙 絵の具 鉛筆	(関) 自然の光から感じ取った美しさを表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、自然の光を見つめ感じ取った形や色彩の美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分の関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて絵の具や色鉛筆を生かしたりして、創意工夫して表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、自然の光の美しさを感じて表した表現の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り見方を広げている。	○		◇	□		

美術1 美術との出会い 題材内容資料

授業題材以外のページ

ページ 題材名	掲載内容	ページの活用方法
P 2・3 オリエンテーション 美術との出会い	この作品は、江戸時代中期の京で活躍した近世日本の画家の一人、伊藤若冲の「鳥獣花木図屏風」を取り上げている。この絵は、六曲一双の屏風のうちの右隻の部分。(全体図は裏表紙に紹介)ここには、ソウ、キリン、空想上の動物を含め、30種類以上もの動物たちが正方形に区切られた画面に瑞々しく描かれている。正面に真っ白に塗られたソウの姿が、若冲の豊かなイメージを見ることができる。この生命の楽園の世界に私たち”人間”の姿を探することはできないだろうか？美術が持つ言語性や豊かな創造世界の素晴らしさを感じ取れるのではないだろうか。	これから美術を学んでいく中学生に、「これ何？」という新鮮な驚きを与え先入観を打ち砕こうと、1年の初めに開くこのページに紹介している。 イラスト的な感覚と細かな技法のこの作品は、過去と現代をつなぐとともに、子どもたちの小学校での学びがよみがえり、いろいろな発見と対話を促し、美術への興味や関心を高めていく。
P 4～7 序章 感じる心があるから…	思い切った視点で捉えられた屋久杉の雄大な姿や、ゴールズワージーによる落ち葉の再構成による美しい表現は、いずれも私たちに身近な自然の美しさに気付かせてくれる。同様に、私たちの見慣れた日常に目と心を向けてみることで見いだせる。また、ステンドグラスや影絵のブラックライトのような光の効果は私たちが非日常的で幻想的な世界に導いてくれる。これらは、小学校からの連続性をふまえ、中学校「美術」の学びへの期待を高めるねらいもある。	写真(作品)を鑑賞し、素直に感じることを出し合う対話から始めたり、さらに実際に木に触れたり、影をトレースしたりするなどの活動や、見慣れた風景を写真で撮影するなどして身近な自然や日常の風景に目と心を向け、五感を働かせて形や色彩、光の表情を感じ取ることから始まる活動に取り組みせたい。序章では中学校「美術」の学びへの期待と意欲を高めるとともに、身近な世界の中に、形や色彩の美しさや材料や光などの魅力を感じることから始めることの大切さに気付かせたい。
P 3 2・3 3 美術館へ行ってみよう！	美術館は、展覧会を開くだけでなく、美術作品の収集、研究、保存・修復する機能の他に、講座やワークショップなどの教育普及活動がさかんに行われていることなども紹介し、多くの人たちに開かれた場所になっていることを中学生にも感じ取って欲しい。	様々な美術作品と出会える美術館。そこで働く人々の役割や美術館の機能を紹介し、社会の中で美術がつなぐものは、人と人のコミュニケーションであり豊かさであることを伝えたい。
P 4 2～4 5 巻末資料 色を学ぶ・色の性質 日本の色づかい・いろいろな技法を用いて	色を使って自分のイメージに合う表現をするために必要な内容をまとめた。具体的には、色の知識や性質、そして、色と形の関係や身近な絵本や玩具などに色彩の効果、四季や伝統から日本的な色を紹介している。色と技法が生かされたサム・フランスの作品を通して、色彩の持つ豊かな表情と技法の面白さを感じ取れる。	折り込みページにしていることで、あらゆる紙面の学習においても常に広げて使うことができる。またこのページは、2・3年生でも応用できる内容で、学年が進んでも使わせたい。
P 4 6・4 7 造形ギャラリー 環境を演出するアートたち	各地域の公共の場所にある作品、パブリックアートと呼ばれる美術作品を紹介している。自分の住む街や公園をよく見ると多くの美術作品に出会える。それぞれの作品が持つ表情は、私たちに美術が与える環境への変化やその可能性を伝えている。素材や表現などその広がり感性は刺激され、身近な色彩や形の面白さなどを発見することで「美」への親しみを持たせてくれる。	美術作品は、鑑賞する対象であり、気持ちを落ち着かせる場所や待ち合わせの場所など、生活に溶け込んでいる。美術がこのように生活の中に息づいていることを学ばせたい。 P32・33の「美術館へ行ってみよう！」のページ等と一緒に紹介してもよい。

美術2・3上 生活の中に生きる美術

題材構成の基本的な考え方について

自分を見つめながら、身の回りや生活へと関心を広げ成長していく過程に寄り添った構成

日文の教科書は、中学生の発達のプロセスに寄り添う形で学習テーマを配列しています。従って、この上下巻に配されている題材は、第2学年、第3学年それぞれの年間指導計画に効果的に組み込めるようになっています。

2・3上では、身の回りや生活へと関心を広げつつ、常に自分自身を見つめながら思春期の発達課題を克服していこうとしている中学生の姿に焦点を当てています。まず、多様な自画像や自分自身を投影しながら想像を広げていくといった、自己を見つめる題材を取り上げました。そして、生活の中に美術がどのようなかたちで生きているのか、美術で学び獲得される力が社会の中でどのように働いているのかを考え、理解していく題材、伝統的なものづくりや日本人の美意識などについて学ぶ題材などを取り上げました。

(1)自画像に描かれたまなざしに込められた意志や、多様な表現のよさを学ぶ「私との対話」、自己を様々なものに投影して表現する「投影された私」、さらには「思いを立体で」など、日頃は気付くことのない、心の深いところに存在する自分自身と出会う題材を取り上げました。

(2)「装いを楽しむ」「生活を彩るデザイン」あるいは「日本の美意識」のように、衣・食・住といった最も基本的な生活に関わるところで働く美術の力としてのデザインや工芸の役割を理解する題材を取り上げました。また、さらに理解を深めるため、「転がる水」(特設ページ)「時代の中で変化するデザイン」「木工の技法」(巻末資料)「受けつぎつくる人の姿」(造形ギャラリー)など、題材以外のページとの連携を図れるようにしました。

(3)「『伝える』をつくる」「『まとめる』方法と工夫」など、文字言語だけでなく、造形言語によって「伝達し合う能力」を育む題材に重点を置きました。

(4)環境を生かした共同制作の題材「個性が響き合う造形」では、共同制作における個々の生徒の働きや役割に目を向け、これまでは難しいとされてきた、共同制作における生徒個々の評価について考えることができるようにしました。

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
I 「つながり」のかたち	P4-5 身近な人を見つめて ー思いを込めて対象を表そうー その人らしさをとらえて表そう (3~6) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●身近な人を見つめ、その人らしさをとらえて主題を生み出そう。 ◆その人への思いにふさわしい表現方法を工夫して表そう。 ■作者の思いを想像しながら作品を鑑賞しよう。	題材の目標 身近な人を温かなまなざしで見つめ、相手に対する思いを大切に、形や色を工夫して表現する。 主な学習内容 ○身近な人を見つめ、人柄などからその人らしさを感じ取る。 ○主題が表せるよう、構図や配色などを検討する。 ○アイデアスケッチを基に、主題が表現されるよう制作する。 ○友だちの作品を鑑賞し、作者の心情や意図、表現の工夫について感じ取る。	画用紙 粘土板 針金 版画板 鉛筆 絵の具 彫刻刀など	(関)身近な人を見つめて感じ取ったことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり、絵の具や粘土などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、身近な人を深く見つめ感じ取ったこと、考えたことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や粘土などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、身近な人を見つめ感じ取ったことや考えたことを基に表現した作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○		◇	□	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
	P6-7 私との対話 ー表すことで見えてくる自分自身ー まなざしに込められた意思 (6~8) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●自分の姿を見つめて考えたことをもとに、表現の構想を練ろう。 ◆今の自分をさまざまな方法で表現してみよう。 ■作品に託した思いや意図について語り合おう。	題材の目標 形や色を工夫して自画像を表しながら、現在の自分の心の中を見つめたり、未来の自分に思いをはせたりする。 主な学習内容 ○自分を見つめ、自分の特徴、性格、思いなどについて考える。 ○自分がより表れるよう、表現技法、構図、色彩などを検討する。 ○アイデアスケッチを基に、主題が表現されるよう制作する。 ○友だちの作品を鑑賞し、どのような思いを感じ取れるのかについて話し合う。	画用紙 鏡 コンピュータ 絵の具 のり ニードル 新聞紙などの紙類	(関)自分の姿を見つめて感じ取ったことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり、絵の具などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、自分の姿を深く見つめ感じ取ったこと、考えたことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、自分の姿を見つめ感じ取ったことや考えたことを基に表現した作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○		◇	□		
	P8-9 投影された私 ーいろいろな自画像にチャレンジしようー 自分を何かに置き換えて (4~7) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●自分の存在を感じさせるものなどをもとに、主題を考えよう。 ◆主題をもとに、ふさわしい表現方法を選び、工夫して表そう。 ■作品に託した思いや意図について語り合おう。	題材の目標 自分自身を普段使っているものや愛用しているものなどに置き換えて表すことで、今まで意識しなかった考え方などに気付く。 主な学習内容 ○自分が日頃愛用している物について考える。 ○モチーフとなる物と自分との関係や、物に込める思いなどについて考え、どのような形や色彩で表現するのかを検討する。 ○粘土を用い、立体作品として強度を保ちながら存在感のあるものになるよう制作する。 ○作品に込める思いについて相互プレゼンテーションを行い、友だちの制作意図について自分の考えを持つ。	粘土板 アクリル 絵の具 鉛筆 表現意図に応じて様々な素材を準備する。	(関)自分の影や愛用しているものなど自分の存在を感じさせるものから感じ取ったことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり、絵の具や粘土、身近な材料などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、自分の影や愛用しているものなど自分の存在を感じさせるものから感じ取ったことや考えたことを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や粘土、身近な材料などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、影や愛用しているものなど自分の存在を感じさせるものから感じ取ったことや考えたことを基に表現した作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○		◇	□		

ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
					A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
I 「つながり」のかたち	P10-11 風景に思いを込めて —身近な風景を見つめ、表そう— 表現方法を工夫して表そう (4~6) <small>個に軸を置く</small> <small>自然・生命・環境</small>	●身近な風景から感じ取ったことをもとに主題を生み出そう。 ◆表現意図に合わせて材料や用具の特徴を生かして表そう。 ■風景に込めた思いや意図、表現の工夫について話し合おう。	画用紙 板 粘土 絵の具 鉛筆	(関)身近な風景を見つめて感じ取ったことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり、絵の具などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、身近な風景を深く見つめ感じ取ったこと、考えたことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、身近な風景を見つめ感じ取ったことや考えたことを基に表現した作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○ ●		◇ ◆	□ ■	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
	P12-13 思いを立体で —材料の特徴を生かして表そう— 自分のイメージを立体に表そう (4~6) <small>個に軸を置く</small> <small>自然・生命・環境</small>	●対象から感じ取ったことをもとに、立体作品を構想しよう。 ◆自分のテーマや表現にふさわしい材料や技法を見つけてつくろう。 ■材料の持つ特徴を生かした作品のよさを味わおう。	●粘土 へら 木材 やすり など 彫刻刀 絵の具 など	(関)身のまわりの人や動物、気に入った情景などを見つめて感じ取ったことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり、粘土や木材、石材などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、身のまわりの人や動物、気に入った情景などを深く見つめ感じ取ったこと、考えたことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、粘土や木材、石材などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、身のまわりの人や動物、気に入った情景などを見つめ感じ取ったことや考えたことを基に表現した作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	●		◆	■		
II 「生きる」のかたち	P14-15 装いを楽しむ —衣装に込める思いや願い— テーマが伝わる衣装を考えよう 身にまとう形や色を、自由な発想で (2~6) <small>身の回りや生活</small> <small>自然・生命・環境</small>	●自分の思いや願いを大切にしたいデザインを考えよう。 ◆形や色、材料を効果的に用いてデザインしてみよう。 ■衣装の美しさやよさ、機能などを味わおう。	紙 布 絵の具 色鉛筆 など	(関)目的や機能を考えて衣装や装飾の表現をすることに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり紙や布、絵の具などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、衣装や装飾のコンセプト、身に付ける人の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、紙や布、絵の具などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、衣装や装飾の造形的なよさや美しさ、着ること装うことを考慮した創造的な表現の工夫、調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めたりしている。		○ ●	◇ ◆	□ ■		

ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
					A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
II 「生きる」かたち P16-17 生活を彩るデザイン 一用と美の調和を考えて一 生活に役立つ光のオブジェ (4~8) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●使う人や場所のことを考え、美しいデザインの構想を練ろう。 ◆表現意図に合った材料や用具を選び、見通しを持ってつくろう。 ■デザインの持つ用途や、機能性と美しさについて理解しよう。	題材の目標 生活を豊かにするデザインに興味を持ち、その機能性や美しさについて考える。 主な学習内容 ○身の回りにある「生活を豊かにするもの」について考え、それらのデザインのよさについて関心を持つ。 ○使用する材料や形、色彩などを変えながら、光の透過の様子による違いについて検討する。 ○心地よいと感じる気持ちを大切に、材料に合う接合方法などを考えてランプシェードを制作する。 ○出来上がった作品を自宅へ持ち帰り、実際に使った様子や感想をレポートとして持ち寄り、それが生活空間にあるときのよさなどについて話し合う。	アクリル板 セロハン 和紙 電球 画用紙 鉛筆 色鉛筆	(関) 使う人や使う場所などの条件を基に生活を美しく彩るデザインを考えて表現することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり多様な造形素材の特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、使用する者の気持ちや使用する空間の条件、生活を美しく彩る機能などを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、多様な造形素材の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、生活を美しく彩るデザインの造形的なよさや美しさ、創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めたりしている。		●	◆	■		
P18-21 手でつくる楽しみ 一用途に応じた材料を選んでつくろう 一 紙でつくる 金属でつくる 革でつくる 布を染めてつくる 木でつくる 「飾り棚」をつくる (6~8) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●材料を手に取り手を動かして、つくりたいものを考えよう。 ◆材料に応じて加工方法を選び、見通しを持ってつくろう。 ■手づくりでしか味わえない、よさや美しさを感じ取り話し合おう。	題材の目標 材料の特性を生かしながら、自分の手でものをづくり出す喜びを味わう。 主な学習内容 ○生活の中で、必要だと思ふものについて考える。 ○機能性や美しさなどの視点から、材料や形、色彩などを検討し、アイデアスケッチを描く。 ○構想に基づき、耐久性や、仕上がりの美しさなどを考えながら使うものや飾るものなどを制作する。 ○実際に完成した作品を使ったり飾ったりして、感想などをレポートにまとめる。	紙 金属 針金 革 木材 布・染料 絵の具 鉛筆 色鉛筆	(関) 紙、金属、木材、革などの材料のよさを生かして表現することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料に応じて適切に用具を選び、その特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、紙、金属、木材、革などの材料の特性を生かし、目的や条件、使用する者の気持ちや機能などを基に形や色彩の効果を、造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、紙、金属、木材、革などの材料やそれを加工する用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、紙、金属、木材、革などの材料のよさを生かした作品の造形的なよさや美しさ、創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めている。		●	◆	■		
P22-25 日本の美意識 一四季を愛でる心、もてなす心一 和紙を生かしたランプをつくろう 伝統技術をもとに和紙の可能性に挑む (4~8) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●生活に息づく日本の伝統的な形や色彩、材料などから発想を広げよう。 ◆日本の風土に息づく材料を生かして表現しよう。 ■つくった作品をもとに、日本の美術文化について話し合ってみよう。	題材の目標 古くから育まれてきた日本の美術や美意識について考え、文化を大切に継承していこうとする気持ちを持つ。 主な学習内容 ○日本家屋における和紙や、屏風、また茶室など、日本の風土に育まれた四季を意識したものについて知り、関心を持つ。 ○和紙の特性を理解し、自分たちでも和紙を漉く体験をする。 ○和紙に折り紙などを貼り付け、光にかざしたときに美しい模様ができるよう工夫する。 ○光を通す和紙の特性から、生活を和ませてくれるランプシェードをつくる。	木 粘土 和紙 ランプ(電球など) 樹脂 絵の具 鉛筆 はさみ 小刀 紙(折り紙など)	(関) 生活に息づく日本の伝統的な形や色彩、材料などを基に目的や機能をj考えて表現することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり和紙や木材などの特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、使用する目的や条件、使用する者の気持ちや機能などを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、和紙や木材などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、生活に息づく日本の伝統的な美意識に基づいて制作した作品の造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めたりしている。		●	◆	■		

ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
					A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
II 「生きる」かたち P26-27 墨が生み出す豊かな世界 ーさまざまな墨の表現を学び、表そうー 墨の表現を味わおう 季節や空気感をとらえて墨で表そう (2～5) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●墨の効果を生かした表現を工夫しよう。 ◆濃淡やぼかしなどの水墨画の技法を学び、表現の幅を広げよう。 ■日本や中国の水墨画を理解し、その美しさやよさを味わおう。	題材の目標 墨と水と紙が織り成し、豊かに表現される水墨画の世界を理解して、墨の特徴を生かした表現に親しむ。 主な学習内容 ○自然や身近なものを見て、その美しさを感じ主題を設定する。 ○水墨画の技法を体験しながら、表したい感じと表現方法、技法について検討する。 ○構図や技法を意識して水墨画を制作する。 ○友だちや作家の水墨画を鑑賞し、そのよさや美しさについて話し合う。	和紙 絵皿 書道用具	(関)墨の効果を生かして表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり墨や筆、和紙などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、墨や筆、和紙などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、墨の効果を生かした表現の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、我が国の美術文化などについての理解や見方を深めている。	○		◇	□	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
P28-29 心触れ合う場 ー公共空間をデザインしようー 心触れ合う公園を考えよう (5～7) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●身近な公共空間に目を向け、人々が集う楽しい場を構想しよう。 ◆形や色彩、材料を工夫して、スケッチや模型で表そう。 ■身の回りの公共空間を観察し、よい点や課題について話し合おう。	題材の目標 身近な公共空間に関心を持ち、人々が憩い豊かな交流ができるような空間の在り方を考えたり、模型で表したりする。 主な学習内容 ○身近な公共空間を取材して、それが人々にもたらす意味について関心を持つ。 ○自分があつたらいいと思う公共空間について、全体の構想や部分の施設などについて考える。 ○構想に基づいてマケットを制作する。 ○相互にプレゼンテーションを行い、友だちの提案についての思いを発表し合い鑑賞を深める。	粘土 スチロール板 針金 画用紙 鉛筆 絵の具	(関)公園や広場など公共空間の目的や機能を考えて表現することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり樹脂粘土やスチレンボード、針金などの材料の特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、公共空間のデザインコンセプトや使用する者の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、樹脂粘土やスチレンボード、針金などの材料特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、デザインされた公共空間の造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについての理解や見方を深めている。		●	◆	■		
P30-31 心に響く形や色 ー生活を豊かにする装飾の工夫ー 心が和む空間をつくらう (8～10) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●気持ちが明るく楽しくなるような、装飾やデザインを考えよう。 ◆装飾する場にふさわしい材料や表現方法を工夫しよう。 ■デザインや装飾のもたらす効果について考えてみよう。	題材の目標 生活空間における形や色彩のもたらす効果について考えて、心を和ませる空間を構想したり、つくったりする。 主な学習内容 ○身の回りの施設にある心が和む空間について調べ、それらがもたらす効果について考える。 ○校内にあつたらいいと思う空間について、心が和む装飾の構想を練る。 ○構想の意図を明確にしたプレゼンボードなどをつくり発表する。 ○その場にふさわしい材料や表現方法を工夫し装飾する。	画用紙 絵の具 鉛筆 色鉛筆	(関)対象となる空間の目的や条件を考えて、使う人の気持ちが明るくなるような装飾をすることに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり絵の具などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、対象となる空間に必要な条件、使う人の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、目的や条件を考え、使う人の気持ちが明るくなるよう装飾された空間の造形的なよさや美しさ、創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めている。		○	◆	□		

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項		
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ	
Ⅲ 「伝え合う」かたち	P34-35 わかりやすく伝えるデザイン 一図や記号で効果的に表そうー 学校で使える楽しいサインを考えよう (2~6) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●身の回りにあるサインをもとに、効果的なデザインを考えよう。 ◆形や色の特徴を生かして、効果的に伝えるデザインを表そう。 ■わかりやすいデザインとは何か、作品をもとに話し合おう。	題材の目標 生活の中に使われているサインやピクトグラムなどの視覚伝達デザインを基に、伝わりやすくする工夫について考えたり、デザインしたりする。 主な学習内容 ○身の回りにあるサインやピクトグラムを調べ、それらの伝えやすくするための工夫について考える。 ○校内にあったらいいと思うサインやピクトグラムについて考え、単純で伝わりやすい図柄や色彩の構想を練り制作する。 ○実際に校内に設置して、その効果について話し合い鑑賞を深める。	画用紙 鉛筆 色鉛筆 ペン 絵の具	(関)サインやピクトグラムの目的や機能を考え、わかりやすく伝える表現をすることに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり絵の具や色鉛筆などの描画材の特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、伝えたい内容、見る者の気持ちなどを基に造形的な美しさなどを総合的に考えわかりやすく伝える表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や色鉛筆などの描画材の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、サインやピクトグラムに込められた造形的な工夫、わかりやすく伝えるための洗練された美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めたりしている。		○	◇	□			
	P36-37 「伝える」をつくる 一効果的に伝える工夫をしようー パッケージやポスターで アニメーションで 漫画やイラストレーションで (4~8) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●伝えたい目的に合わせて表現の構想を練ろう。 ◆材料や表現方法の効果を考えて豊かに表現しよう。 ■強調や省略などの工夫された表現の効果を考えよう。	題材の目標 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、構図や配色の工夫などでより効果的な表現を考える。 主な学習内容 ○身近にある広告やポスターを見て、伝えたい事柄や伝えやすくする工夫について考える。 ○意図が効果的に伝わるような、構図やキャッチコピー、色彩についてアイデアスケッチを描きながら検討する。 ○画材の特性を生かして美しく制作する。 ○相互鑑賞を行い、作者の伝えやすくするための工夫について考え、話し合う。	画用紙 鉛筆 色鉛筆 ペン 絵の具	(関)目的や条件に合わせて伝えるためのデザインをすることに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり絵の具や色鉛筆などの描画材の特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、伝えたい内容や見る者の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や色鉛筆などの描画材の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、伝えるためのデザインの造形的なよさや美しさ、作者の意図と創造的な表現の工夫、目的に合わせて工夫された洗練された美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについての理解や見方を深めたりしている。		○	◇	□			
	P38-39 「まとめる」方法と工夫 一伝える効果考えたデザインをしようー 地域紹介のリーフレットをつくる (6~8) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●さまざまな情報を効果的にまとめて示すデザインの構想を練ろう。 ◆伝える内容に合わせて、材料や表現方法の効果を考えて表現しよう。 ■情報の受け手の視点から、表現のわかりやすさについて話し合おう。	題材の目標 文字や図の配置や色彩の効果を工夫して、伝えたい内容を的確に伝える。 主な学習内容 ○修学旅行などの思い出をまとめるため、何が印象に残ったのか、伝えたいことを明確に持つ。 ○伝えたい内容に沿って、写真や文字のレイアウト、配色、素材などについて構想する。 ○視覚的な効果などを確かめながら、リーフレットとして制作する。 ○相互鑑賞を行い、まとめ方の工夫について感じたことを書いたり、話し合ったりする。	紙 ペン 色鉛筆 和紙 のり はさみ など	(関)体験したことや考えたことを効果的にまとめて表現することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり絵の具などの描画材や身近な材料などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、伝えたい内容や見る人の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具などの描画材や身近な材料などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、体験したことや考えたことを効果的にまとめた表現の造形的なよさや美しさ、創造的な表現の工夫、効果的にまとめられた美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについての理解や見方を深めたりしている。		○	◇	□			
	P40-41 個性が響き合う造形 一心を合わせてつくる楽しさー 環境を生かしてつくりよう (5~8) 身の回りや生活 自然・生命・環境	●設置する場所を考え、環境を生かした作品の構想を練ろう。 ◆友だちと役割を分担して、見通しを持って制作しよう。 ■設置した作品のよさや働きと、場所との関係について話し合おう。	題材の目標 共同で制作することを楽しみを見出すとともに、互いに関わり合いながらよりよいものを練りあげて制作に取り組む。 主な学習内容 ○グループを構成し、主題について話し合う。 ○設置する環境を見て、グループごとにどんな表現にしたらよいか構想を練る。 ○材料の特性を生かして組合せなどを工夫し、よりよいものになるよう共同で意見を出し合いながら制作する。 ○相互鑑賞を行い、それぞれの作品のよさについて話し合う。	画用紙 絵の具 鉛筆 板 布 など	(関)友だちとアイデアを出し合いながら協力してつくることに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、設置する空間の目的や条件、共同制作のテーマや見る人の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、必要な材料や用具の特性を生かし、自分たちの表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、協力して創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、共同制作の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、設置する空間との調和などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きなどについての理解や見方を深めたりしている。		●	◆	■			

ページ 題材名	掲載内容	ページの活用方法
P2・3 オリエンテーション 生活の中に生きる美術	インド出身、イギリス在住の現代美術家アニッシュ・カプーアの、パブリックアート作品「クラウド・ゲート」を取り上げている。美術館の中にある彫刻作品ではなく、誰もが触れられる公園という公共空間に設置してあり、その情景がよくわかる。裏表紙の異なる情景写真と併せ見ることで、全体の外観や、彫刻内部に入った様子から、この作品の存在について考えを深めることができる。	身の回りの生活空間には美術があふれている。公共空間などに設置されている芸術作品などは、興味・関心がなければ見逃してしまうものである。そのようなパブリックアート(公共芸術)の存在をまず知り、作者の意図や、それを目にしたり、触れたりする人々の作品との関わりなどについて考えさせるきっかけとしたい。
P32・33 生きるためのデザイン 転がる水	かつて重い水を運搬するのに何kmも離れた場所へ汲みに行っていた子供たち。その重労働をデザインの力で革命的にかえた「Qドラム」という転がる水タンク。普段は気が付かないが、生活の中に何気なく溶け込み、無くてはならないデザインの存在を改めて感じさせてくれるエピソードである。	デザインは、一部の富裕層に向けたものではなく、アフリカの農村部のような貧しい人たち(世界の人口の90%)のためのものでなければならぬという理念を紹介し、国際理解や、美術が存在する意義など多面的な視点から取り上げたい。
P42 巻末資料 写真撮影の第一歩	デジタルカメラの基本的な要素を押さえた。「各部の名称と機能」「撮影時の姿勢」「絞りとシャッタースピード」「レンズの調整(ズームなど)」「ローアングル」「流し撮り」など、生涯、美術と日常的に関わる分野だけに、知識として知っておくと役に立つものである。	デジタルカメラの普及により、中学生でも手軽にカメラを扱えるようになった。シャッターを押せば誰もが簡単に写真を撮ることができるが、カメラの基本的な操作を改めて学ぶことで、より質の高い写真を撮影するとともに、表したい願いに近づけるような作品を撮ることができるように活用したい。
P43・44 巻末資料 時代の流れの中で変化する デザイン	1800年代後半から、現代に至るまでのデザインを概観する年表である。ポスター、建築、プロダクトなど世界の有名なデザインの一部を紹介している。また、世界の大きな出来事の年表と併わせて見ることで、時代背景を考えながらデザイン史を捉えることができる。	デザインや、工芸的な題材を取り上げる際、デザイン史における位置付けについて触れることで、作品制作が生活につながっていく動機付けとなるであろう。また、純粋にデザインの鑑賞教材としても使用できる。
P45 巻末資料 木工の技法・水墨画の技法	木工の技法では、「切る(のこぎりで)」「彫る(彫刻刀で)」「削る(やすりで)」「削る(小刀で)」という基本的な加工法について示した。手順やコツなど図と解説で説明している。水墨画の技法では、「墨の濃淡の調節」「筆の使い方(運筆法)」「没骨法・破墨法・積墨法」など代表的な技法を紹介した。	木工では刃物を使う場合が多い。事故防止のために制作に入る前にこのページを活用し、基本的な用具の取扱いについて再確認させたい。また、水墨画の技法については、「墨が生み出す豊かな世界」を始めとして資料として活用したい。
P46・47 造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿	日本の伝統工芸を「織る」「彫る」「削る」「編む」「染める」「描く」「漉く」「塗る」「練る・焼く」「鍛える」という観点から、各地の工芸と、つくる職人の姿を掲載した。	日常的に使う道具である工芸品を、美術文化の継承という視点から授業で紹介したい。また、各題材との関連資料として活用するとともに、地域の伝統工芸を見直す導入としても扱いたい。

美術 2・3 下 社会に広がる美術

題材構成の基本的な考え方について

美術を楽しむ心と、よりよい未来を創造していく美術の力を育む学びを導く

2・3下では、中学生が社会へと目を向け、その世界観を広げながら未来を考え、創造的に問題解決していこうとする姿に焦点を当てています。また、見たものを抽象化したり、イメージを形や色彩で表したり、あるいは新鮮な見方で世界を捉えたりすることを通して新しいものを生み出す力を育みます。まず、表現することで社会にメッセージを発信したり、たくさんの人と関わったり、あるいは快適な暮らしや環境を考え、よりよい未来を主体的に創造していく題材を中心に構成しています。また、長い歴史や多様な風土の中で生まれ培われてきた文化遺産や美術文化を通して世界を知り、自らを知り、さらにこうした学びを通して美術を楽しむ心を育みます。

「社会に広がる美術」「ゲルニカは語る」「メッセージを表す」「平和への願い」など社会へのメッセージを込めた題材、社会や世界とつながりながら問題解決に向かう題材を取り上げています。

(1)「自然と共に生きる」「息づく生命を感じて」など、自然環境や生命の問題を捉えながら、持続可能な世界など私たちの未来を考える題材を取り上げました。

(2)見慣れた日常に新たな視点を与えてくれる「新鮮な見方で」や試行錯誤しながら構想するプロセスの中で抽象化されていくイメージの世界を捉えた「イメージの変容」、あるいは「だまされる楽しさ」「版表現の豊かさ」など多様な表現の可能性や面白さに触れながら、新しいものを生み出す高度な技能や感性を育む題材を取り上げました。

(3)「祈りの形」「世界を魅了したきらめき」あるいは先住民の表現から大切なことを学ぶ「受けつがれる形」や「ジャポニスム」など異文化との相違点や共通性を通して日本美術の魅力や伝統文化を受けついでいくことの大切さを学ぶ題材や「アジアの新しい風」など、アジアの美術文化を理解していく題材を取り上げました。

(4)人と場をつなぐ「空間の演出」や、日常の世界を非日常の世界に変容させる演出で「感動の共有」を図る展示やインスタレーションを扱った題材を取り上げました。

ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
					A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
I イメージの力 P4-5 息づく生命を感じて 一心に浮かんだイメージを表そう— 想像の動物を打ち出そう (4~6) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●生き物の持つ豊かな形や色からイメージを広げよう。 ◆材料を生かし、方法を工夫して効果的に表そう。 ■自然や作品の造形的な美しさを感じ取り、幅広く味わおう。	題材の目標 自然界の生き物や想像の動物など、それらの持つ生命感を感じ取ることから主題を設定し、表現方法を工夫して不思議な動物や生命体を表す。 主な学習内容 ○生き物などの持つ造形的な美しさから、生命のイメージを膨らませる。 ○対象の面白い形を生かしながら自分なりにデフォルメして形を決定する。 ○銅板を打ち出しの技法を使い、立体感を意識しながら制作していく。 ○完成した作品を鑑賞し合い、作者の意図や表現方法などについて批評し合う。	銅板 いもづち 油土 スケッチブック 鉛筆	(関) 生き物の形や色彩からイメージを広げて表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり銅板や打ち出しのための用具の特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、生き物を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、想像したことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、銅板や打ち出しのための用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、生き物の形や色彩からイメージを広げた表現の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○ ●		◇ ◆	□ ■	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
P6-7 あふれ出る躍動感 一動きの中に美をとらえて— 動きをとらえて表現しよう (4~8) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●生き生きとした動きの美しさをとらえ、表現の構想を練ろう ◆躍動感が伝わるような表現方法を工夫しよう。 ■自分の体験や気持ちを交えながら動きの表現の工夫を感じ取ろう。	題材の目標 人の一瞬の動きや、自然が見せるダイナミックな現象の場面が美術表現の重要なテーマになることを理解し、変化していく対象を観察し、生き生きと絵や立体に表す。 主な学習内容 ○学校行事や部活動などで、心に残った場面を思い出してスケッチをする。 ○スケッチをもとに、躍動感が伝わるような構図や形を構想する。 ○色の効果や、デフォルメなどを考えながら構成する。 ○完成した作品を鑑賞し、躍動感を表現する工夫などについて批評し合う。	セロハン 絵の具 パステル 画用紙 加工粘土 墨 色紙 鉛筆	(関) 生き生きとした動きをとらえて表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり絵の具や粘土、針金などの特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、躍動する人物の動きなどを深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、想像したことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や粘土、針金などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、生き生きとした動きをとらえた表現の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○ ●		◇ ◆	□ ■		
P8-9 イメージの変容 一制作上の試行錯誤— 探そう、自分の形や色 (2~6) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●主題を効果的に表すため、単純化、省略や強調などを工夫しよう。 ◆形や色、材料を生かして表現しよう。 ■互いの表現の意図や工夫について話し合おう。	題材の目標 自分の中のイメージをより確かなものにするために、作品の制作過程において試行錯誤することが大切であることを学ぶ。 主な学習内容 ○マティスやモンドリアンの作品を鑑賞し、それらがいくつもの試行錯誤の繰り返しを経てきたことを知る。 ○自然物をスケッチする。 ○スケッチした作品を切り分け、それらを試行錯誤してさらに美しい作品になるよう再構成する。 ○友だちや自分の作品を鑑賞し、試行錯誤の意図や工夫について話し合う。	画用紙 絵の具 はさみ 加工粘土 金属棒 板 鉛筆	(関) 自然物などから感じ取ったことなどを基にイメージを広げて表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり絵の具や粘土などの特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、自然物などを深く見つめ感じ取ったことなどを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調を試みながらイメージを模索し、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や粘土などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、自然物などから感じ取ったことなどを基にイメージを広げた表現の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○ ●		◇ ◆	□ ■		

ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B 規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
					A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
I イメージの 力	P10-11 想像の世界への飛翔 ー自由な発想でイメージを表そうー 想像や空想のイメージを広げて (6~8) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●自分の体験や想像の世界からのイメージを見つけよう。 ◆自分の表現にふさわしい表現方法を工夫しよう。 ■作品に託された意図や思いについて話し合おう。	題材の目標 想像や空想の世界を、生活の中で体験した様々な思いや感じ取ったことを基にイメージを膨らませ、形や色、材料を工夫して表す。 主な学習内容 ○心の中を深く見詰め、想像や空想の世界を広げイメージする。 ○イメージを基に、表したいと思うアイデアをスケッチする。 ○イメージに適した表現方法を選び、形や色彩、材料を工夫して表す。 ○作品を鑑賞し、作品に託された意図や思いについて話し合い、自分の考えを発表する。	画用紙 鉛筆 色鉛筆 ペン 絵の具	(関)見たこと体験したことを基に想像を広げ表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり絵の具や身近な材料などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、これまでの体験や夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や身近な材料などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、想像や空想のイメージの造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○		◇	□	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
	P12-13 だまされる楽しさ ー錯覚を利用した不思議な世界ー 形や色彩のトリックを生かして (5~7) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●見え方の不思議を知り、目の錯覚を利用した表現を構想しよう。 ◆主題をもとに、投影図法や透視図法などを用いて表そう。 ■形や色彩の効果を感じ取り、見え方の不思議を味わおう。	題材の目標 錯視や錯覚による不思議な世界に興味を持ち、透視図法や投影図法を用いるなどして、不思議な世界をつくり出す。 主な学習内容 ○錯覚を利用した表現の不思議さや面白さに興味を持つ。 ○自分の思いや生活の中で考えていることを不思議な絵として表現することを構想する。 ○図法や配色について学び、不思議な絵の表現方法を知り、表現する。 ○友だちや自分の作品を鑑賞し、錯覚を用いた表現の面白さを味わう。	画用紙 色鉛筆 鉛筆 絵の具	(関)錯視や錯覚の効果を生かした表現をすることに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、錯視や錯覚の生かし方を考え、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、錯視や錯覚の効果を生かした表現の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○		◇	□	
	P14-15 版表現の豊かさ ー版の特性を生かして表そうー いろいろな版表現を楽しもう (5~7) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●版表現の特徴や味わいをもとに発想を広げ、主題を生み出そう。 ◆版の特性を理解し、刷りの効果を生かして表現しよう。 ■さまざまな版表現のよさや工夫を鑑賞しよう。	題材の目標 版表現の多様性に興味を持ち、刷りの効果を生かす工夫を考えながら版で表す。 主な学習内容 ○版表現を用いた参考作品を鑑賞し、版で表す効果や技法による表現の違いなどを感じ取る。 ○自分の経験や表現したいイメージに合った版の技法を選び、発想を広げる。 ○版の性質や材料、技法の特徴を生かして表す。 ○友だちや自分の作品を鑑賞し、版画の表現効果や楽しさを味わう。	紙 ローラー はさみ カッター 彫刻刀 プレス機 葉 ひも 段ボール など	(関)版表現の特徴や味わいを生かして表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、版表現の特徴や味わい、対象を見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、製版に用いる材料や用具の特性を生かすとともに、プレス機やバレンを用いて効果的な刷りの工夫をするなどして、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、版表現の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○		◇	□	
	P16-17 新鮮な見方で ー日常の情景に心をとめてー 心を動かされた情景を表そう (6~8) 個に軸を置く 自然・生命・環境	●見方を変えることで得られる新鮮な感動から主題を生み出そう。 ◆画面の構成や表現方法を工夫して表そう。 ■新鮮な見方で表現された作品のよさや美しさを味わおう。	題材の目標 普段とは違った視点で日常の風景を見つめ、その感動を絵や写真などに表現する。 主な学習内容 ○日常の中の風景や情景を視点を変えて見てみる。 ○新しい情景を見つけ、スケッチしながら発想する。 ○写真で表したり絵で画など表現方法を選び、材料や道具を効果的に使って表現する。 ○友だちや自分の作品を鑑賞し、視点を変えることの面白さを味わう。 ○浮世絵の構図などが、欧米の美術に大きな影響を与えたことを学ぶ。	デジタルカメラ 画用紙 鉛筆 絵の具	(関)日常生活の中で心を動かされた情景などを表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり材料や絵の具などの描画材や写真などの特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、日常生活の中で心を動かされた情景などを深く見詰め感じ取ったこと、考えたことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、絵の具などの描画材や写真などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、日常生活の中で心を動かされた情景などを表現した作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	○	●	◇	□	

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項			
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ		
Ⅱ 社会の中で	P18-19 平和への願い 一形や色に思いを託して一 争いを乗り越える力を表そう (5~8) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	● 平和を求める思いなどを表現するための構想を練ろう。 ◆ 自分の表現意図に合うような方法や材料を探そう。 ■ 作品のテーマをもとに、作者の意図について話し合おう。	題材の目標 戦争と平和の問題について考え、自分の思いを形や色彩で表す。 主な学習内容 ○ 平和について考え、表現することに興味を持つ。 ○ 平和を求める思いなどを表現するためのアイデアを発想する。 ○ 立体や平面作品など自分の表したいテーマにあった表現方法を選び、効果的に表現する。 ○ 友だちや自分の作品を鑑賞し、意図やテーマなどについて話し合う。	紙粘土 アクリル 画用紙 新聞紙 色鉛筆 鉛筆 針金など	(関) 平和への願いを表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり絵の具や粘土、身近な材料などの特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、平和への願いを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や粘土、身近な材料などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、平和への願いを表現した作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。	●		◆	■	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。		
	P20-21 メッセージを表す 一社会の問題を美術を通してとらえよう一 形と色は訴える (5~7) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	● 身の回りにあるものや廃材をもとに、表現の構想を練ろう。 ◆ 伝えたいことを材料や方法を工夫して表そう。 ■ 作品のメッセージや、材料や構成の工夫を感じ取ろう。	題材の目標 身の回りの廃材などを用いて社会の問題や課題をメッセージとして立体などに表す。 主な学習内容 ○ 現代社会の問題や課題について考え、表現することに興味を持つ。 ○ 伝えたいことを吟味し、表現方法を考慮しながら発想する。 ○ 伝えたいことに合った材料や表現方法を考え、効果的に表現する。 ○ 友だちや自分の作品を鑑賞し、どんなメッセージを伝えようとしているのか考え、表現の面白さを味わう。	接着剤 絵の具 新聞紙 鉛筆	(関) 現代社会の問題について考えたことを伝える表現に関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて現代社会の問題について考え、伝えたい内容、伝える方法などを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や粘土、身近な材料などの特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、現代社会の問題について考えたことを伝える表現の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、社会にメッセージを発信する美術の働きなどについての理解や見方を深めたりしている。		○	◇	□				
	P22-23 自然と共に生きる 一自然環境に優しい造形一 建物をイメージした鉢植えをつくろう (5~7) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	● 自然の持つ形や色彩について考え、作品の構想を練ろう。 ◆ 自然との共生の視点から、材料を選んだり、表現方法を工夫したりしよう。 ■ 作品をもとに、自然と人間社会をつなぐ造形について話し合おう。	題材の目標 建築や空間の良さを探り、自然と共生する視点でものづくりに取り組む。 主な学習内容 ○ 自然の持つ形や色彩について表現することに興味を持つ。 ○ 建物をイメージしたアイデアを発想する。 ○ 自然との調和を考えて形や色彩を工夫して制作する。 ○ 友だちや自分の作品を鑑賞し、美術を通じた自然環境について考えてみる。	陶土 竹ひご 土 (接着剤) 画用紙 絵の具 鉛筆 色鉛筆	(関) 自然と共生する視点で表現することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり土や石、木や竹、和紙などの材料の特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて自然との共生について考え、土や石、木や竹、和紙などの材料の特徴や、使用する者の気持ちや機能などを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、土や石、木や竹、和紙などの材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、自然との共生の視点から表現した作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、自然との調和を考える美術の働きについての理解や見方を深めている。		●	◆	■				

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項		
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ	
II 社会 の中で	P24-25 感動の共有 一日常の世界を新鮮なものに— みんなが感動する空間をつくらう (3~5) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	●人々を新鮮な感動に誘う楽しい作品を構想しよう。 ◆場所、人、作品の関係を考え、材料を工夫して効果的に表そう。 ■体験をもとに、美術表現の可能性について話し合おう。	題材の目標 空間や場所の特徴や、光や風、空気の動きなどを感じて発想し、感動する空間をつくり出す。 主な学習内容 ○校舎内の空間を演出することに興味を持つ。 ○人を感動させるために、校舎内のどこをどのように演出したらよいかを考える。 ○どのような空間に、どのようなものを展示するとよいかをグループで相談して、構想を練る。 ○グループで役割分担して、空間に展示するものをその効果を確かめながら制作し展示する。 ○展示した空間の面白さを味わい、みんなで感動を共有する。	厚紙 カラーセロハン ひも 色鉛筆 画用紙 鉛筆 はさみ のり	(関) 校内の空間を楽しく効果的に演出することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料を吟味しその特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、校内の空間を楽しく効果的に演出する目的や方法、見る者の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、材料を吟味しその特性を生かすとともに、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、楽しく効果的に演出された校内空間の造形的なよさや美しさ、作者の意図や創造的な表現の工夫、空間の機能との調和などを感じ取り味わったり、感動を共有する美術の働きなどについての理解や見方を深めたりしている。		●	◆	■		形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
	P26-27 街の中に息づくアート 一人と人のかかわりを生み出す造形— 身近な場所のモニュメントを考えよう (5~7) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	●人と人のかかわりを生み出し、対話を促す立体作品を構想しよう。 ◆周囲の景観との調和や設置の効果などを考えながら表現しよう。 ■公共の場に置かれた造形作品の役割や意義について理解を深めよう。	題材の目標 公共空間のアート作品と出会い、人と人の関わりが生まれる造形を考える。 主な学習内容 ○学校や公園など身近な場所にモニュメントを設置する活動について考える。 ○周囲の景観との調和や設置の効果などを考えたモニュメントを考え発表する。 ○考えたモニュメントの模型作品を作成する。 ○完成した作品を写真と合成し、その効果について話し合おう。	加工粘土 ペン 絵の具 デジタルカメラ 電子黒板 コンピューター 色鉛筆 鉛筆 画用紙	(関) 人と人のかかわりを生み出すモニュメントを表現することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり絵の具や粘土などの材料やデジタル映像機器の特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、モニュメントのコンセプト、設置する空間の条件、見る者の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、絵の具や粘土などの材料やデジタル映像機器の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、人と人のかかわりを生み出すモニュメントやそれを構想したマケットなどの造形的なよさや美しさ、作者の意図と創造的な表現の工夫、空間との調和などを感じ取り味わったり、生活の中にコミュニケーションの場を生み出す美術の働きなどについての理解や見方を深めたりしている。	○	●	◇	◆	□		
	P28-29 空間の演出 一人と場をつなぐ形や色— 校内を演出してみよう (4~6) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	●身近な環境や空間を生かした演出やデザインの構想を練ろう。 ◆目的に合わせた空間をつくるための工夫をしよう。 ■空間の演出効果について話し合おう。	題材の目標 校舎内の空間を、形や色彩などを工夫して明るく生き生きした雰囲気にかえる。 主な学習内容 ○空間演出や空間デザインなどに興味を持つ。 ○校舎内を演出するためのアイデアを発想する。 ○材料や道具を効果的に使って、目的に合わせた空間づくりをする。 ○空間の演出効果について話し合いをする。	紙 絵の具 セロハンテープ 鉛筆	(関) 校内の空間を美しく演出することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料を吟味しその特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、校内の空間を美しく演出する目的や方法、見る者の気持ちなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、材料を吟味しその特性を生かすとともに、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、美しく演出された校内空間の造形的なよさや美しさ、作者の意図や創造的な表現の工夫、空間の機能との調和などを感じ取り味わったり、快適な空間を演出する美術の働きなどについての理解や見方を深めたりしている。		○		◇	□		

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B 規準)	学習指導要領との関連				共通事項	
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ
Ⅲ 文化 受けつぎ・つくる	P32-33 祈りの形 ー自分の思いを託して表そうー 思いを手に託して表そう (4~7) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	●ポーズや動きなどに思いを込めて表すための構想を練ろう。 ◆形や質感などを工夫して、思いを効果的に表そう。 ■仏像などの造形的な特徴や、そこに込められた思いを探ろう。	題材の目標 文化財を鑑賞して、過去の文化を受け継ぎながら、思いを立体などに表す。 主な学習内容 ○古今東西の絵や彫刻のポーズや動きに興味を持つ。 ○ポーズや動きなどに思いを込めて表すためのアイデアを発想する。 ○思いを効果的に表すために、形や質感などを工夫して表現する。 ○仏像などの造形的な特徴や、そこに込められた思いを感じ味わう。	石膏 粘土 紙 へら 鉛筆	(関)仏像などの文化財を鑑賞し感じたことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり石膏や粘土、材料を吟味しその特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、仏像などを深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、想像したことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、材料を吟味しその特性を生かすとともに、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、仏像などの文化財の造形的なよさや美しさ、文化財を鑑賞し感じたことや考えたことを基に表現された作品の作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、祈りの形を生み出してきた美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。	●		◆	■	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。	
	P34-35 世界を魅了したきらめき ー金色の効果を用いた表現を味わおうー 金色の効果を生かして (3~7) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	●金色の効果を生かして、主題を生み出そう。 ◆主題をもとに、金色の効果や材料や方法を工夫して表そう。 ■金色を用いたさまざまな表現を味わってみよう。	題材の目標 金色の効果を生かして配色や構成を考えながら形や色彩で表す。 主な学習内容 ○金色を使った表現に興味を持つ。 ○金色の効果を生かして主題を生み出し、アイデアを発想する。 ○主題を基に、金色の効果や材料や方法を工夫して表す。 ○金色を用いた様々な表現を味わう。	色紙 ボール紙 金色アクリル絵の具 鉛筆	(関)屏風などの金色の効果を用いた表現に関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料を吟味しその特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、屏風などの金色の効果を生かした表現から感じ取ったことや考えたこと、想像したことなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、材料を吟味しその特性を生かすとともに、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、屏風などの金色の効果を用いた表現や、そこから感じ取ったことなどを基に表現された作品の造形的なよさや美しさ、作者の意図や創造的な表現の工夫、空間の機能との調和などを感じ取り味わったり、金色を用いて世界を魅了してきた美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。		○	◇	□		
	P36-37 アジアの新しい風 ー現代のアジアの表現に触れようー 国を越えた交流 (4~8) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	●現代のアジアの美術の造形的な魅力をもとに、発想を広げよう。 ◆美術を通して交流する方法を考え、形や色彩を工夫して表そう。 ■現代のアジアの美術を味わい、その特色や背景の文化を理解しよう。	題材の目標 アジアの美術を味わい、形や色彩を工夫して表す。 主な学習内容 ○現代のアジアの美術に興味を持つ。 ○現代のアジアの美術の造形的な魅力を感じ、発想を広げる。 ○形や色彩を工夫して表す。 ○現代のアジアの美術を味わい、その特色や背景の文化を理解する。	紙 絵の具 色鉛筆 鉛筆	(関)現代のアジアの美術に触れ感じたことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり石膏や粘土、材料を吟味しその特性を生かしたりしようとしている。 (発)感性や想像力を働かせて、現代のアジアの美術に触れ感じ取ったこと、考えたこと、想像したことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 (創)感性や造形感覚などを働かせて、材料を吟味しその特性を生かすとともに、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑)感性や想像力を働かせて、現代のアジアの美術やそれを鑑賞して感じ取ったことなどを基に表現された作品の造形的なよさや美しさ、作品の作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、アジアに息づく美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。	○		◇	□		

	ページ テーマ 題材名(配当時間) 題材分類	学びのねらい	題材の目標と 主な学習内容	材料 用具	題材の評価規準の例(B規準)	学習指導要領との関連				共通事項		
						A (1)	A (2)	A (3)	B 鑑	ア	イ	
Ⅲ 文化 受けつぎ・つくる	P38-39 受けつがれる形 ー自然とのつながりから生まれた造形ー アイヌ文様を生かしてみよう (1~6) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	●自然とのつながりから生まれた造形をもとに、発想を広げよう。 ◆伝統的な技法や身近な材料を生かして表現しよう。 ■自然とのつながりから生まれた造形を味わおう。	題材の目標 世界や日本の伝統的な形を味わい、工夫して形や色彩で表す。 主な学習内容 ○自然とのつながりから生まれた造形に興味を持つ。 ○自然とのつながりから生まれた造形をもとに、オリジナルの文様などの発想を広げる。 ○伝統的な技法や身近な材料を生かして表現する。 ○自然とのつながりから生まれた造形を味わう。	紙 彫刻刀 レリーフ用板 鉛筆	(関) 自然とのつながりから生まれた形に触れ感じたことや考えたことを基に表現することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料を吟味しその特性を生かしたりしようとしている。 (発) 感性や想像力を働かせて、自然とのつながりから生まれた表現から感じ取ったことや考えたこと、想像したことなどを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。 (創) 感性や造形感覚などを働かせて、材料を吟味しその特性を生かすとともに、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ったりしながら、創造的に表現している。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、自然とのつながりから生まれた表現や、そこから感じ取ったことなどを基に表現された作品の造形的なよさや美しさ、作者の意図や創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、自然とのつながりから生まれ伝えられてきた美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。		○	◇	□		形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
	P40-41 文化遺産を守る ー美しい形や色彩を未来へ残そうー アンコール遺跡群と修復 (1~2) 社会や世界とつながる 自然・生命・環境	●文化遺産などの造形的な魅力を守り伝えるための方法を考えよう。 ◆修復や保存について学び、材料や技法の理解を深めよう。 ■文化遺産などの造形的な魅力や歴史的な価値について話し合おう。	題材の目標 普遍的な価値を持つ文化遺産を次の世代へ残す役割について理解する。 主な学習内容 ○文化遺産などの造形的な魅力を守り伝える活動に興味を持つ。 ○造形的な魅力を守り伝えるためのアイデアを発想する。 ○修復や保存について学び、材料や技法について理解する。 ○文化遺産などの造形的な魅力や歴史的な価値について話し合う。	写真資料 映像資料 ワークシート 鉛筆	(関) 文化遺産などの造形的な魅力を味わい、守り伝えていこうとしている。 (鑑) 感性や想像力を働かせて、文化遺産や美術作品の造形的なよさや美しさ、作者の意図や創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、美術文化を守り伝えていこうとすることについての理解を深めたりしている。				■			

授業題材以外のページ

ページ 題材名	掲載内容	ページの活用方法
P 2・3 オリエンテーション 社会に広がる美術	オリンピック開会式(2008年、北京)での、アートディレクター水谷孝次による「メリープロジェクト」を紹介している。水谷氏は、「子どもたちの笑顔こそが未来への希望である」と語っている。美術やアートという形を用いたメッセージが、より感動的に人々の心に届くということが実感できる。美術は個人の世界を追究することもできるが、社会へ目を向け社会の問題へ人々の関心を向けたり、解決するヒントを与えたりする可能性もあるということに気付かせたい。「社会とつながるもの」としての美術の学びが、自分たちの将来にどう生かされていくのかという展望を中学生に持たせることが大切である。	年度当初のオリエンテーションで、美術についての意味や意義を考えさせながら用いたい。授業の最初に、「美術の意味は何か？意義は何か？」と質問し、生徒に考えさせてから、このページを鑑賞することで、今まで感じたり考えたりすることがなかった、美術やアートの面白さに気付くきっかけにしたい。
P 3 0・3 1 社会を元気にする美術の力 アート・イベントに出かけよう！	美術作品は美術館に保管されているだけではなく、既に社会の様々な地域や場所で、社会を活性化する手段の一つとして生かされていることを示している。地域で行われているイベントが多様多様であり、アーティスト以外の市民が参加してイベントをつくり上げている様子を掲載した。また、中学生自身もイベントの企画者であり、アーティストとなることができるという可能性についても写真で掲載した。	校舎内の環境を生かした作品制作をする場合の、発想・構想の場面で用いたい。今まで授業の中で平面や立体といった形式的な表現をしてきた枠を突き破り、自由な発想をさせたいとき、空間の生かし方や、材料の選び方など、新しい表現を発見するきっかけにしたい。
P 4 2 巻末資料 金属でつくる	金属を扱う上での材料や道具の扱い方を、分かりやすく示した。「彫金」「鍍金」「鍛金」3種の技法を紹介することにより、技法の違いで作品の様子も違うものになるという作例を写真で示している。	金属を用いた制作の導入場面や、道具の説明などの時に扱いたい。三種類の表現方法による作品写真も掲載しあるので、自分たちの用いる技法により、自分の作品がどうなっていくのか、見通しを持ちやすい。導入や発想段階で活用したい。
P 4 3～4 5 巻末資料 日本美術の展開と世界との交流	日本美術の優れた作品群を紹介しつつ、世界との交流を続けていったことにより、日本の美術が発展してきたことを示している。また、日本美術が世界の美術表現に影響を与えていたということも、この年表では、分かりやすく図示している。	単に美術史の流れを学習する場面で扱っても良い。様々な表現方法があるということに気づく授業資料としても活用できる。その時代の代表作品を鑑賞し、当時の時代背景や、最先端の表現であるという前提で鑑賞することを通し、現代の新しい美術表現とは何かも考えることができる。
P 4 6・4 7 造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る	ピカソの作品の写真やエピソードを読みながら、私たちの疑問や葛藤が、試行錯誤を繰り返す中で感動へと変えられていくということを感じほしいという願いが込められている。ピカソの苦悩や葛藤を感じるために、制作過程の写真を掲載している。	美術の授業は、決して技能の伸長だけを求めているのではない。美術表現が楽しいと感じられるためには、自分の思いや表したいテーマを持ち、技能を使って形にし、他者から共感されることが必要である。その出発点としての発想構想段階で、自分の思いに自分で向き合い、葛藤すらも表現として成立することの素晴らしさを伝える導入としたい。

年間指導計画の作成について

年間指導計画作成上の留意点

年間指導計画案を作成するに当たって、留意したいことは以下のとおりです。

- ・学習指導要領における中学校美術の「目標」及び「内容」について理解を深める。
- ・地域や学校の特色、中学校の実態等を把握し、その上で計画案を立案する。
- ・教科書の内容や題材をよく検討し、学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」に配慮する。
- ・個々の生徒が、その特性や持ち味を生かしながら意欲的に学習活動に参加できる魅力と、教育意義に富んだ指導計画案を作成する。

二期制（二学期制）と三学期制

教育環境を取り巻く大きな流れとして、三学期制から二期制への移行があります。各学年、各学期の評価・評定に対して十分な学習活動とその見取りのための時間の確保が困難であるという状況が問題として挙げられています。

年間指導計画案例

二期制の場合 第1学年

	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	総計	
前後期に区分	週数	前期 18 週						後期 17 週						35 週
	〔第1案〕 前期 10 週 2h 他の週 1h	28 時間						17 時間						45 時間
	〔第2案〕 後期 10 週 2h 他の週 1h	18 時間						27 時間						45 時間
通年平均	週数	18 週						17 週						35 週
	〔第3案〕 通年平均等 (週約 1.3h)	23 時間						22 時間						45 時間

二期制の場合 第2・3学年

	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	総計	
通年	週数	18 週						17 週						35 週
	時間	18 時間						17 時間						35 時間

三学期制の場合 第1学年

	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	総計		
前後期に区分	週数	前期 18 週						後期 17 週						35 週	
	〔第1案〕 前期 10 週 2h 他の週 1h	21 時間						15 時間						9 時間	45 時間
	〔第2案〕 後期 10 週 2h 他の週 1h	13 時間						18 時間						14 時間	45 時間
通年平均	週数	13 週						13 週						9 週	35 週
	〔第3案〕 通年平均等 (週約 1.3h)	16 時間						17 時間						12 時間	45 時間

三学期制の場合 第2・3学年

	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	総計		
通年	週数	13 週						13 週						9 週	35 週
	時間	13 時間						13 時間						9 時間	35 時間

そのような状況を踏まえ、二期制が一つの有効な手段として実施されているところも見受けられます。しかし、三学期制で行われてきた中学校の指導計画を二期制に切り替えるに当たっては、まだまだ検討しなければならない課題も多くあります。そこで、ここでは年間指導計画を二期制、三学期制の両方を掲載することとしました。

各学校における年間指導計画上の留意点

日文中学校美術教科書の各題材は、学校や地域、生徒の実態、指導のねらい等々に応じて多様な取扱いができるように、さまざまな要素によって構成しました。したがって、一つの題材から幾通りもの展開が可能です。年間指導計画案を例示するに当たっては、教科書の題材名をそのまま使用しています。

題材の具体化の過程において、先生方の創意や工夫が大いに発揮され、学校や地域、生徒の実態、指導のねらい、評価計画等に即した、より優れた指導計画が作成されることを願っています。

年間指導計画例 第1学年二期制

平均的な配当(例1)					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	2・3	オリエンテーション 美術との出会い 伊藤若冲「鳥獣花木図屏風」	B鑑	1
		4～7	序章・感じる心があるから… 自然の形や色・光の表情を感じ取ろう/ 図画工作から美術へ/身近にある形や 色彩から/光の美しさに魅せられて	B鑑	
		8・9	感じたことをそのままに 身近な風景や自然物を見て表そう 見たり触れたりしたことを自由に表そう	A(1) A(3) B鑑	
5	前期	12・13	自然の形や色 自然のさまざまな美しさ	A(1) A(3) B鑑	3
		42	巻末資料「色を学ぶ」	B鑑	
6	前期	10・11	いろいろなスケッチ 知るためのスケッチ 考えるためのスケッチ 伝えるためのスケッチ	A(1) A(2) A(3)	2
		20・21	使いやすさを求めて 自分にとって使いやすいスプーンを考え よう	A(2) A(3) B鑑	
7	前期	30・31	土と炎の造形 使えるものや飾ものをつくろう 焼き物の可能性を求めて	A(2) A(3) B鑑	5
		16・17	小さな生命を見つめて 身近な生命を表そう	A(1) A(3) B鑑	
9	前期	24・25	文字や形で伝える 文字の形から自由に発想しよう マークのデザインを考えよう	A(2) A(3) B鑑	4
		18・19	顔をつくる コラージュで表してみよう 写真で表してみよう	A(1) A(3) B鑑	
11	前期	40・41	光の美しさを求めて 光をとらえて表そう	A(1) A(3) B鑑	4
		34・35	残された造形 描かれた古代の絵や文様 偶然できた形から	A(1) A(3) B鑑	
12	前期	36・37	「和風」を味わう 日本の伝統的な文様 身近で探す「和風」 地域の伝統を取り入れて表そう	A(2) A(3) B鑑	4
		44	巻末資料「日本の色づかい」	B鑑	
2	前期	22・23	遊び心 身近な材料を生かした形	A(2) A(3) B鑑	5
3	前期	38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア 暮らしに見る形と色彩 アジアの形や色彩をもとに表そう	A(1) A(3) B鑑	2

平均的な配当(例2)					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	2・3	オリエンテーション 美術との出会い 伊藤若冲「鳥獣花木図屏風」	B鑑	1
		4～7	序章・感じる心があるから… 自然の形や色・光の表情を感じ取ろう/ 図画工作から美術へ/身近にある形や 色彩から/光の美しさに魅せられて	B鑑	
		45	巻末資料「いろいろな技法を用いて」	A(1) A(3) B鑑	
5	前期	18・19	顔をつくる コラージュで表してみよう 写真で表してみよう	A(1) A(3) B鑑	3
		42	巻末資料「色を学ぶ」	B鑑	
6	前期	43	巻末資料「色の性質」	B鑑	2
		44	巻末資料「日本の色づかい」	B鑑	
7	前期	24・25	文字や形で伝える 文字の形から自由に発想しよう マークのデザインを考えよう	A(2) A(3) B鑑	4
		10・11	いろいろなスケッチ 知るためのスケッチ	A(1) A(3) B鑑	
9	前期	16・17	小さな生命を見つめて 身近な生命を表そう	A(1) A(3) B鑑	2
		32・33	美術館へ行ってみよう!	B鑑	
10	前期	46・47	造形ギャラリー 環境を演出するアートたち	B鑑	1
		28・29	手で作る心 木の特性を生かしてつくる	A(2) A(3) B鑑	
11	前期	40・41	光の美しさを求めて 光をとらえて表そう	A(1) A(3) B鑑	2
		14・15	自然の表情 風の表情をとらえる	A(1) A(3) B鑑	
12	前期	26・27	楽しく伝える メッセージを楽しく伝える	A(2) A(3) B鑑	4
		36・37	「和風」を味わう 日本の伝統的な文様 身近で探す「和風」 地域の伝統を取り入れて表そう	A(2) A(3) B鑑	
1	後期	22・23	遊び心 身近な材料を生かした形	A(2) A(3) B鑑	4
		38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア 暮らしに見る形と色彩	B鑑	
2	後期	34・35	残された造形 描かれた古代の絵や文様 偶然できた形から	A(1) A(3) B鑑	2
		38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア 暮らしに見る形と色彩 アジアの形や色彩をもとに表そう	A(1) A(3) B鑑	

前期を週2H, 後期を週1H					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	2・3	オリエンテーション 美術との出会い 伊藤若冲「鳥獣花木図屏風」	B鑑	1
		4～7	序章・感じる心があるから… 自然の形や色・光の表情を感じ取ろう/ 図画工作から美術へ/身近にある形や 色彩から/光の美しさに魅せられて	B鑑	
		10・11	いろいろなスケッチ 知るためのスケッチ	A(1) A(3) B鑑	
5	前期	16・17	小さな生命を見つめて 身近な生命を表そう	A(1) A(3) B鑑	6
		10・11	いろいろなスケッチ 考えるためのスケッチ	A(2) A(3) B鑑	
6	前期	14・15	自然の表情 感じたままに風をとらえて	A(1) A(3) B鑑	6
		32・33	美術館へ行ってみよう!	B鑑	
9	前期	45	巻末資料「いろいろな技法を用いて」	A(1) A(3) B鑑	1
		10・11	いろいろなスケッチ 伝えるためのスケッチ	A(2) A(3) B鑑	
10	前期	24・25	文字や形で伝える マークのデザインを考えよう	A(2) A(3) B鑑	前期 3
		10	文字や形で伝える マークのデザインを考えよう	A(2) A(3) B鑑	
11	前期	18・19	顔をつくる 写真で表してみよう	A(1) A(3) B鑑	2
		38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア	B鑑	
12	前期	30・31	土と炎の造形 焼き物の可能性を求めて	A(2) A(3) B鑑	6
		36・37	「和風」を味わう 日本の伝統的な文様 身近で探す「和風」	A(2) A(3) B鑑	
2	後期	36・37	「和風」を味わう 日本の伝統的な文様 身近で探す「和風」	A(2) A(3) B鑑	4

前期を週1H, 後期を週2H					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	2・3	オリエンテーション 美術との出会い 伊藤若冲「鳥獣花木図屏風」	B鑑	1
		4～7	序章・感じる心があるから… 自然の形や色・光の表情を感じ取ろう/ 図画工作から美術へ/身近にある形や 色彩から/光の美しさに魅せられて	B鑑	
		8・9	感じたことをそのままに 身近な風景や自然物を見て表そう 見たり触れたりしたことを自由に表そう	A(1) A(3) B鑑	
5	前期	12・13	自然の形や色 自然のさまざまな美しさ 自然物の美しさを生かした作品	B鑑	1
		40・41	光の美しさを求めて 光をとらえて表そう	A(1) A(3) B鑑	
6	前期	14・15	自然の表情 空からのメッセージ	A(1) A(3) B鑑	4
		10・11	いろいろなスケッチ 知るためのスケッチ 考えるためのスケッチ 伝えるためのスケッチ	A(1) A(2) A(3) B鑑	
9	前期	20・21	使いやすさを求めて 自分にとって使いやすいスプーンを考え よう	A(2) A(3) B鑑	6
		42	巻末資料「色を学ぶ」	B鑑	
10	前期	43	巻末資料「色の性質」	B鑑	4
		26・27	楽しく伝える メッセージを楽しく伝える	A(2) A(3) B鑑	
11	前期	36・37	「和風」を味わう 日本の伝統的な文様 身近で探す「和風」 地域の伝統を取り入れて表そう	A(2) A(3) B鑑	5
		44	巻末資料「日本の色づかい」	B鑑	
12	前期	34・35	残された造形 描かれた古代の絵や文様	B鑑	8
		30・31	土と炎の造形 使えるものや飾ものをつくろう 焼き物の可能性を求めて	A(2) A(3) B鑑	
1	後期	46・47	造形ギャラリー 環境を演出するアートたち	B鑑	1
		18・19	顔をつくる コラージュで表してみよう 写真で表してみよう	A(1) A(3) B鑑	
2	後期	45	巻末資料「いろいろな技法を用いて」	B鑑	8
		38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア 暮らしに見る形と色彩 アジアの形や色彩をもとに表そう	A(1) A(3) B鑑	

※ここに示した配当時間や指導計画は一例です。

年間指導計画例 第2学年二期制

平均的な配当					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	上2・3	オリエンテーション 生活の中に生きる美術	B鑑	1
		下2・3	アニッシュ・カプーア「クラウド・ゲート」 社会に広がる美術 水谷孝次「メリープロジェクト」		
5	前期	下8・9	イメージの変容 探そう、自分の形や色	A(1) A(3) B鑑	2
		上34・35	わかりやすく伝えるデザイン ピクトグラムを使ったデザイン ピクトグラムを考えよう	A(2) A(3) B鑑	
6	前期	上12・13	思いを立体で 自分のイメージを立体に表そう	A(1) A(3) B鑑	6
9	前期	上36・37	「伝える」をつくる アニメーションで	A(2) A(3) B鑑	5
		上42	巻末資料「写真撮影の第一歩」	A(3)	
10	前期	下16・17	新鮮な見方で 心を動かされた情景を表そう	A(1) A(3) B鑑	2
		上14・15	装いを楽しむ 身にまとう形や色を、自由な発想で	A(2) A(3) B鑑	
11	後期	下6・7	あふれ出る躍動感 動きをとらえて表現しよう	A(1) A(3) B鑑	6
12		下42	巻末資料「金属でつくる」	A(3) B鑑	
1	後期	上18～20	手で作る楽しみ 紙・金属・革・布を染め・木でつくる	A(2) A(3) B鑑	6
2					
3	後期				

テーマを大きく絞った配列例					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	上2・3	オリエンテーション 生活の中に生きる美術 アニッシュ・カプーア「クラウド・ゲート」	B鑑	1
		上18～21	手で作る楽しみ 金属でつくる	A(2) A(3) B鑑	
6	前期	上32・33	転がる水	B鑑	1
		下10・11	想像の世界への飛翔 想像や空想のイメージを広げて	A(1) A(3) B鑑	
7	前期	上42	巻末資料「写真撮影の第一歩」	A(3)	7
		上8・9	投影された私 自分を何かに置き換えて	A(1) A(3) B鑑	
10	後期	上46・47	造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿	B鑑	1
		上22～25	日本の美意識 和紙を生かしたランブシェードをつくろう	A(2) A(3) B鑑	
1	後期	下32・33	祈りの形 表情に見る心の形 東西の美術に見る手の表現	A(1) A(3) B鑑	7

発展性を考え、題材を関連付けた配列例						
月	学期	関連項目	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	美術の窓	上2・3	オリエンテーション 生活の中に生きる美術 アニッシュ・カプーア「クラウド・ゲート」	B鑑	1
		深く見つめる目線	下16・17	新鮮な見方で 心を動かされた情景を表そう 日常の新しい情景を見つけ出そう	A(1) A(3) B鑑	
7	前期	日本の美	上46・47	造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿	B鑑	6
			上45	巻末資料 「木工の技法」	A(3)	
10	後期	伝える工夫	上36・37	「伝える」をつくる パッケージやポスターで アニメーションで 漫画やイラストレーションで	A(2) A(3) B鑑	8
			下18・19	平和への願い 平和のおしりを配ろう	A(2) A(3) B鑑	
1	後期	生きるためのデザイン	上43・44	巻末資料 「時代の流れの中で変化するデザイン」	B鑑	2
			上32・33	転がる水	B鑑	
1	後期	生きるかたち	上14・15	装いを楽しむ テーマが伝わる衣装を考えよう 身にまとう形や色を、自由な発想で	A(2) A(3) B鑑	6
			下38・39	受けつがれる形 受けつがれてきた美しい文様	A(2) A(3) B鑑	
3	後期	生きる美術	下34・35	世界を魅了したきらめき 金の雲と金の空 金を使った装飾	B鑑	3
			下24・25	感動の共有 みんなが感動する空間をつくろう	A(2) A(3) B鑑	

「描く活動」「つくる活動」「鑑賞」のバランスを重視した配列例					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	上2・3	オリエンテーション 生活の中に生きる美術 アニッシュ・カプーア「クラウド・ゲート」	B鑑	1
		上4・5	身近な人を見つめて その人らしさをとらえて表そう	A(1) A(3) B鑑	
6	前期	上46・47	造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿	B鑑	6
		上16・17	生活を彩るデザイン 生活に役立つ光のオブジェ 座る形のデザイン	B鑑	
9	前期	上18～21	手で作る楽しみ 紙でつくる 金属でつくる 革でつくる 布を染めてつくる 木でつくる	A(2) A(3) B鑑	5
		下12・13	だまされる楽しさ 形や色彩のトリックを生かして	A(1) A(3) B鑑	
10	後期	下4・5	息づく生命を感じて 想像の動物の形を打ち出そう 心の中に種をまいたら	A(1) A(3) B鑑	6
		上12・13	思いを立体で 自分のイメージを立体に表そう	A(1) A(3) B鑑	
12	後期	下34・35	世界を魅了したきらめき 金の雲と金の空 金を使った装飾 金色の効果を生かして	A(2) A(3) B鑑	3
		下43～45	日本美術の展開と世界との交流	B鑑	
1	後期	上22～25	日本の美意識 木の箸をつくろう 和紙の温かさ 四季を愛でる 和菓子で季節を表そう	A(2) A(3) B鑑	5
		上45	巻末資料 「水墨画の技法」	A(3) B鑑	
2	後期	上26・27	墨が生み出す豊かな世界 墨の表現を味わおう 季節や空気感をとらえて	A(1) A(3) B鑑	5

※2・3学年については、上下巻を併用する例を掲載しています。
※ここに示した配当時間や指導計画は一例です。

年間指導計画例 第3学年二期制

平均的な配当				
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域 時間
4	前期	上32・33	転がる水	B鑑 1
		上43・44	巻末資料 「時代の流れの中で変化するデザイン」	B鑑
5	前期	上16・17	生活を彩るデザイン 座る形のデザイン	A(2) A(3) B鑑 4
6		下32・33	折りの形 表情に見る心の形	B鑑
6	前期	下43～45	巻末資料 「日本美術の展開と世界との交流」	B鑑
		下34・35	世界を魅了したきらめき 金の雲と金の空 金を使った装飾 金色の効果を生かして	A(2) A(3) B鑑 7
7	前期	上8・9	投影された私 自分を何かに置き換えて	A(1) A(3) B鑑 5
9		上46・47	造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿	B鑑
10	前期	上22～25	日本の美意識 木の箸をつくろう 和紙の温かさ 四季を愛でる 和菓子で季節を表そう	A(2) A(3) B鑑 3
11		下22・23	自然と共に生きる 建物をイメージした鉢植えをつくろう	A(2) A(3) B鑑 5
12	後期	下46・47	造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る 私のゲルニカ	A(1) A(3) B鑑 2
		下36・37	アジアの新しい風 アジアの友だちの作品に触れてみよう	B鑑
1	後期	下38・39	受けつがれる形 受けつがれてきた美しい文様	A(2) A(3) B鑑 3
2		上40・41	個性が響き合う造形 環境を生かしてつくろう	A(2) A(3) B鑑 5
3	後期			

テーマを大きく絞った配列例				
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域 時間
4	前期	下2・3	オリエンテーション 社会に広がる美術 水谷孝次「メリープロジェクト」	B鑑 1
		下40・41	文化遺産を守る アンコールの遺跡群と修復 修復家の仕事 岡本太郎の「明日の神話」	B鑑 1
5	前期	上6・7	私との対話 まなざしに込められた意志	A(1) A(3) B鑑 7
		下30・31	アート・イベントに出かけよう！	B鑑
6	前期	1年 46・47	造形ギャラリー 環境を演出するアートたち	B鑑
		下26・27	街の中に息づくアート 対話を生み出す立体作品をつくろう	A(1) A(3) B鑑 9
7	前期	下16・17	新鮮な見方で 心を動かされた情景を表そう	A(1) A(3) B鑑 8
		下43～45	巻末資料 「日本美術の展開と世界との交流」	B鑑
8	前期	下20～21	メッセージを表す 形と色は訴える	A(2) A(3) B鑑 7
		下46・47	造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る 心の葛藤を感動に変える	B鑑 1

発展性を考え、題材を関連付けた配列例					
月	学期	関連項目	ページ	テーマ/題材	領域 時間
4	前期	美術の扉	下2・3	オリエンテーション 社会に広がる美術 水谷孝次「メリープロジェクト」	B鑑 1
		イメージの力	下8・9	イメージの変容 探そう、自分の形や色	A(1) A(3) B鑑 2
5	前期		下43～45	巻末資料 「日本美術の展開と世界との交流」	B鑑 1
		自分の中の私	上6・7	私との対話 まなざしに込められた意志 さまざまな表現を通して	A(1) A(3) B鑑 7
6	前期		上8・9	投影された私 影を使って表そう 自分を何かに置き換えて	A(1) A(3) B鑑
			下10・11	想像の世界への飛翔 想像や空想のイメージを広げて	A(1) A(3) B鑑
7	前期	自然の中の私	下22・23	自然と共に生きる 建物をイメージした鉢植えをつくろう	A(2) A(3) B鑑 6
		社会を変える美術	下46・47	造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る ゲルニカはなぜ描かれたか	B鑑 1
8	前期	学校を変える美術	下28・29	空間の演出 ディスプレイデザイン 校内を演出してみよう	A(2) A(3) B鑑 8
			下26・27	街の中に息づくアート 対話を生み出す立体作品をつくろう 身近な場所のモニュメントを考えよう	A(1) A(3) B鑑
9	前期		下30・31	アート・イベントに出かけよう！	B鑑
		扉の向こうに	下32・33	折りの形 表情に見る心の形 東西の美術に見る手の表現	B鑑 2
10	前期		下36・37	アジアの新しい風 アジアの友だちの作品に触れてみよう	B鑑
		心をあわせて	上40・41	個性が響き合う造形 環境を生かしてつくろう	A(2) A(3) B鑑 6
11	前期	美術を守る	下40・41	文化遺産を守る アンコールの遺跡群と修復 修復家の仕事 岡本太郎の「明日の神話」	B鑑 1

「描く活動」「つくる活動」「鑑賞」のバランスを重視した配列例				
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域 時間
4	前期	下2・3	オリエンテーション 社会に広がる美術 水谷孝次「メリープロジェクト」	B鑑 1
		下14・15	版表現の豊かさ いろいろな版表現を楽しもう	A(1) A(3) B鑑 5
5	前期	下46・47	造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る 私のゲルニカ	A(1) A(3) B鑑 2
		下26・27	街の中に息づくアート 対話を生み出す立体作品をつくろう 身近な場所のモニュメントを考えよう	A(1) A(3) B鑑 7
6	前期	下20・21	メッセージを表す 廃材に新たな命を吹き込もう ありふれたものたちが…	A(1) A(3) B鑑
		上42	巻末資料 「写真撮影の第一歩」	A(3) 3
7	前期	上38・39	「まとめる」方法と工夫 ポスターを工夫する	A(2) A(3) B鑑 3
		下18・19	平和への願い 争いを乗り越える力を表そう	A(1) A(3) B鑑 5
8	前期	上32・33	転がる水	B鑑
		上43・44	巻末資料 「時代の流れの中で変化するデザイン」	B鑑 1
9	前期	下28・29	空間の演出 ディスプレイデザイン	A(2) A(3) B鑑 1
		下24・25	感動の共有 みんなが感動する空間をつくろう	A(2) A(3) B鑑 5
10	前期	下30・31	アート・イベントに出かけよう！	B鑑
		下38・39	受けつがれる形 受けつがれてきた美しい文様	A(2) A(3) B鑑 1
11	前期	下40・41	文化遺産を守る アンコールの遺跡群と修復 修復家の仕事 岡本太郎の「明日の神話」	B鑑 1

※2・3学年については、上下巻を併用する例を掲載しています。
※ここに示した配当時間や指導計画は一例です。

年間指導計画例 第1学年三学期制

平均的な配当(例1)						
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域 時間		
4	1学期	2・3	オリエンテーション 美術との出会い 伊藤若冲「鳥獣花木図屏風」	B鑑	1	
		4～7	序章・感じる心があるから… 自然の形や色・光の表情を感じ取ろう ／ 図画工作から美術へ／身近にある 形や色彩から／光の美しさに魅せられて	B鑑		
		8・9	感じたことをそのままに 身近な風景や自然物を見て表そう 見たり触れたりしたとを自由に表そう	A(1) A(3) B鑑	2	
5	1学期	10・11	いろいろなスケッチ 知るためのスケッチ	A(1) A(3) B鑑	5	
		16・17	小さな生命を見つめて 身近な生命を表そう	A(1) A(3) B鑑		
6	1学期	10・11	いろいろなスケッチ 考えるためのスケッチ	A(2) A(3) B鑑	6	
		20・21	使いやすさを求めて 自分にとって使いやすいスプーンを考 えよう	A(2) A(3) B鑑		
7	1学期	10・11	いろいろなスケッチ 伝えるためのスケッチ	A(2) A(3) B鑑	1	
		32・33	美術館へ行ってみよう！	B鑑		
		46・47	造形ギャラリー 環境を演出するアートたち	B鑑		
9	2学期	14・15	自然の表情 空からのメッセージ 風の表情をとらえる	A(1) A(3) B鑑	5	
10		38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア 暮らしに見る形と色彩 アジアの形や色彩をもとに表そう	A(1) A(3) B鑑	4	
		42	巻末資料「色を学ぶ」	B鑑	6	
		43	巻末資料「色の性質」	B鑑		
11		44	巻末資料「日本の色づかい」	B鑑	4	
		36・37	「和風」を味わう 日本の伝統的な文様 身近で探す「和風」 地域の伝統を取り入れて表そう	A(2) A(3) B鑑		
12		24・25	文字や形で伝える 文字の形から自由に発想しよう マークのデザインを考えよう	A(2) A(3) B鑑	4	
1		3学期	45	いろいろな技法を用いて	A(1) A(3) B鑑	5
2			26・27	楽しく伝える メッセージを楽しく伝える	A(2) A(3) B鑑	
3			30・31	土と炎の造形 使えるものや飾るものをつくろう 焼き物の可能性を求めて	A(2) A(3) B鑑	

平均的な配当(例2)					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域 時間	
4	1学期	2・3	オリエンテーション 美術との出会い 伊藤若冲「鳥獣花木図屏風」	B鑑	1
		4～7	序章・感じる心があるから… 自然の形や色・光の表情を感じ取ろう ／ 図画工作から美術へ／身近にある 形や色 彩から／光の美しさに魅せられて	B鑑	
		45	巻末資料「いろいろな技法を用いて」	A(1) A(3) B鑑	1
5	1学期	18・19	顔をつくる コラージュで表してみよう 写真で表してみよう	A(1) A(3) B鑑	3
		42	巻末資料「色を学ぶ」	B鑑	2
43	巻末資料「色の性質」	B鑑	4		
44	巻末資料「日本の色づかい」	B鑑		1	
24・25	文字や形で伝える 文字の形から自由に発想しよう マークのデザインを考えよう	A(2) A(3) B鑑	1		
10・11	いろいろなスケッチ 知るためのスケッチ	A(1) A(3) B鑑		2	
16・17	小さな生命を見つめて 身近な生命を表そう	A(1) A(3) B鑑	1		
32・33	美術館へ行ってみよう！	B鑑	1		
46・47	造形ギャラリー 環境を演出するアートたち	B鑑	1		
9	2学期	28・29	手で作る心 木の特性を生かしてつくる	A(2) A(3) B鑑	8
		40・41	光の美しさを求めて 光をとらえて表そう	A(1) A(3) B鑑	2
10	2学期	14・15	自然の表情 風の表情をとらえる	A(1) A(3) B鑑	6
		26・27	楽しく伝える メッセージを楽しく伝える	A(2) A(3) B鑑	4
11	2学期	36・37	「和風」を味わう 日本の伝統的な文様 身近で探す「和風」	A(2) A(3) B鑑	3
		22・23	遊び心 身近な材料を生かした形	A(2) A(3) B鑑	4
12	2学期	38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア 暮らしに見る形と色彩	B鑑	1
		34・35	残された造形 描かれた古代の絵や文様 偶然できた形から	A(1) A(3) B鑑	2
1	3学期	22・23	遊び心 身近な材料を生かした形	A(2) A(3) B鑑	4
2		38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア 暮らしに見る形と色彩	B鑑	1
3		34・35	残された造形 描かれた古代の絵や文様 偶然できた形から	A(1) A(3) B鑑	2

前半を週2H, 後半を週1H					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域 時間	
4	1学期	2・3	オリエンテーション 美術との出会い 伊藤若冲「鳥獣花木図屏風」	B鑑	1
		4～7	序章・感じる心があるから… 自然の形や色・光の表情を感じ取ろう ／ 図画工作から美術へ／身近にある 形や色彩から／光の美しさに魅せられて	B鑑	
		10・11	いろいろなスケッチ 知るためのスケッチ	A(1) A(3) B鑑	4
5	1学期	16・17	小さな生命を見つめて 身近な生命を表そう	A(1) A(3) B鑑	6
		10・11	いろいろなスケッチ 考えるためのスケッチ	A(2) A(3) B鑑	4
6	1学期	14・15	自然の表情 感じたままに風をとらえて	A(1) A(3) B鑑	6
		32・33	美術館へ行ってみよう！	B鑑	1
8	2学期	45	巻末資料「いろいろな技法を用いて」	A(1) A(3) B鑑	1
		10・11	いろいろなスケッチ 伝えるためのスケッチ	A(2) A(3) B鑑	4
10	2学期	24・25	文字や形で伝える マークを考えよう	A(2) A(3) B鑑	5
		18・19	顔をつくる 写真で表してみよう	A(1) A(3) B鑑	2
11	2学期	38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア	B鑑	1
		30・31	土と炎の造形 焼き物の可能性を求めて	A(2) A(3) B鑑	6
12	2学期	36・37	「和風」を味わう 自分だけの文様をつくろう 身近で探す「和風」	A(2) A(3) B鑑	4
		1	30・31	土と炎の造形 使えるものや飾るものをつくろう 焼き物の可能性を求めて	A(2) A(3) B鑑
2	3学期	36・37	「和風」を味わう 自分だけの文様をつくろう 身近で探す「和風」	A(2) A(3) B鑑	4
3		36・37	「和風」を味わう 自分だけの文様をつくろう 身近で探す「和風」	A(2) A(3) B鑑	4

前半を週1H, 後半を週2H					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域 時間	
4	1学期	2・3	オリエンテーション 美術との出会い 伊藤若冲「鳥獣花木図屏風」	B鑑	1
		4～7	序章・感じる心があるから… 自然の形や色・光の表情を感じ取ろう ／ 図画工作から美術へ／身近にある 形や 色彩から／光の美しさに魅せられて	B鑑	
		8・9	感じたことをそのままに 身近な風景や自然物を見て表そう 見たり触れたりしたとを自由に表そう	A(1) A(3) B鑑	1
5	1学期	12・13	自然の形や色 自然のさまざまな美しさ 自然物の美しさを生かした作品	B鑑	1
		40・41	光の美しさを求めて 光をとらえて表そう	A(1) A(3) B鑑	2
6	1学期	14・15	自然の表情 空からのメッセージ 風の表情をとらえる	A(1) A(3) B鑑	4
		10・11	いろいろなスケッチ 知るためのスケッチ 考えるためのスケッチ 伝えるためのスケッチ	A(1) A(2) A(3) B鑑	4
9	2学期	20・21	使いやすさを求めて 自分にとって使いやすいスプーンを考え よう	A(2) A(3) B鑑	7
		42	巻末資料「色を学ぶ」	B鑑	
10	2学期	43	巻末資料「色の性質」	B鑑	4
		26・27	楽しく伝える メッセージを楽しく伝える	B鑑	
11	2学期	36・37	「和風」を味わう 日本の伝統的な文様 身近で探す「和風」	A(2) A(3) B鑑	2
		44	巻末資料「日本の色づかい」	B鑑	8
34・35	残された造形 描かれた古代の絵や文様	B鑑	1		
30・31	土と炎の造形 使えるものや飾るものをつくろう 焼き物の可能性を求めて	A(2) A(3) B鑑		2	
46・47	造形ギャラリー 環境を演出するアートたち	B鑑	8		
18・19	顔をつくる コラージュで表してみよう 写真で表してみよう	A(1) A(3) B鑑		2	
45	巻末資料「いろいろな技法を用いて」	A(1) A(3) B鑑	2		
38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア 暮らしに見る形と色彩 アジアの形や色彩をもとに表そう	A(1) A(3) B鑑		2	

※ここに示した配当時間や指導計画は一例です。

年間指導計画例 第2学年三学期制

平均的な配当					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	1学期	上2・3	オリエンテーション 生活の中に生きる美術 アニッシュ・カプーア「クラウド・ゲート」	B鑑	1
		下2・3	社会に広がる美術 水谷孝次「メリープロジェクト」		
5	1学期	上10・11	風景に思いを込めて 表現方法を工夫して表そう	A(1) A(3) B鑑	4
6		上46・47	造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿	B鑑	4
	上45	巻末資料「木工の技法」	A(3)		
	上22～25	日本の美意識 木の箸をつくろう 和紙の温かさ 四季を愛でる 和菓子で季節を表そう	A(2) A(3) B鑑		
7	2学期	下8・9	イメージの変容 探そう、自分の形や色	A(1) A(3) B鑑	2
9		下10・11	想像の世界への飛翔 想像や空想のイメージを広げて (版表現を生かして)	A(1) A(3) B鑑	6
10	2学期	下42	巻末資料「金属でつくる」	A(2) A(3) B鑑	6
		上18～21	手で作る楽しみ 紙・金属・革・布を染め・木でつくる	A(2) A(3) B鑑	
11	3学期	上45	巻末資料「水墨画の技法」	A(3) B鑑	2
		上26～27	墨が生み出す豊かな世界 墨の表現を味わおう	A(1) A(3) B鑑	
		下43～45	日本美術の展開と世界との交流	B鑑	
1	3学期	下32・33	祈りの形 表情に見る心の形	B鑑	1
2		下34・35	世界を魅了したきらめき 金の雲と金の空 金を使った装飾 金色の効果を生かして	A(2) A(3) B鑑	5
3	3学期	下24・25	感動の共有 みんなが感動する空間をつくろう	A(2) A(3) B鑑	4

テーマを大きく絞った配列例					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	1学期	上2・3	オリエンテーション 生活の中に生きる美術 アニッシュ・カプーア「クラウド・ゲート」	B鑑	1
		上18～21	手で作る楽しみ 金属でつくる	A(2) A(3) B鑑	6
6	1学期	上32・33	転がる水	B鑑	1
		下10・11	想像の世界への飛翔 想像や空想のイメージを広げて	A(1) A(3) B鑑	6
9	2学期	上42	巻末資料「写真撮影の第一歩」	B鑑	1
		上8・9	投影された私 自分を何かに置きかえて	A(1) A(3) B鑑	6
11	2学期	上46・47	造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿	B鑑	1
		上22～25	日本の美意識 和紙を生かしたランプシェードをつくろう	A(2) A(3) B鑑	6
12	3学期	下32・33	祈りの形 表情に見る心の形 東西の美術に見る手の表現	A(1) A(3) B鑑	7

発展性を考え、題材を関連付けた配列例						
月	学期	関連項目	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	1学期	美術の窓	上2・3	オリエンテーション 生活の中に生きる美術 アニッシュ・カプーア「クラウド・ゲート」	B鑑	1
		深く見つめる目線	下16・17	新鮮な見方で 心を動かされた情景を表そう	A(1) A(3) B鑑	9
			上10・11	風景に思いを込めて 表現方法を工夫して表そう	A(1) A(3) B鑑	
9	2学期	日本の美	上46・47	造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿	B鑑	6
			上45	巻末資料 「木工の技法」	A(3)	
			上22～25	日本の美意識 木の箸をつくろう	A(2) A(3) B鑑	
	伝える工夫	上36・37	「伝える」をつくる パッケージやポスターで アニメーションで 漫画やイラストレーションで	A(2) A(3) B鑑	8	
		下18・19	平和への願い 平和のおしりを配ろう	A(2) A(3) B鑑		
		上42	巻末資料 「写真撮影の第一歩」	A(3)		
生きるデザイン	上43・44	巻末資料 「時代の流れの中で変化するデザイン」	B鑑	2		
	上32・33	転がる水	B鑑			
	生きるかたち	上14・15	装いを楽しむ テーマが伝わる衣装を考えよう 身にまとう形や色を、自由な発想で	A(2) A(3) B鑑	6	
下38・39	受けつがれる形 受けつがれてきた美しい文様	A(2) A(3) B鑑				
上16・17	生活を彩るデザイン 生活に役立つ光のオブジェ 座る形のデザイン	A(2) A(3) B鑑				
1	3学期	生きる美術	下34・35	世界を魅了したきらめき 金の雲と金の空 金を使った装飾	B鑑	3
			下24・25	感動の共有 みんなが感動する空間をつくろう	A(2) A(3) B鑑	

「描く活動」「つくる活動」「鑑賞」のバランスを重視した配列例					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	1学期	上2・3	オリエンテーション 生活の中に生きる美術 アニッシュ・カプーア「クラウド・ゲート」	B鑑	1
		上4・5	身近な人を見つめて その人らしさをとらえて表そう	A(1) A(3) B鑑	4
6	1学期	上46・47	造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿	B鑑	6
		上16・17	生活を彩るデザイン 生活に役立つ光のオブジェ 座る形のデザイン	B鑑	
		上18～21	手で作る楽しみ 紙でつくる 金属でつくる 革でつくる 布を染めてつくる 木でつくる	A(2) A(3) B鑑	
9	2学期	下12・13	だまされる楽しさ 形や色彩のトリックを生かして	A(1) A(3) B鑑	5
		下4・5	息づく生命を感じて 想像の動物の形を打ち出そう 心の中に種をまいたら	A(1) A(3) B鑑	6
11	2学期	上12・13	思いを立体で 自分のイメージを立体に表そう	A(1) A(3) B鑑	3
		下34・35	世界を魅了したきらめき 金の雲と金の空 金を使った装飾 金色の効果を生かして	A(2) A(3) B鑑	
		下43～45	巻末資料 「日本美術の展開と世界との交流」	B鑑	
1	3学期	上22～25	日本の美意識 木の箸をつくろう 和紙の温かさ 四季を愛でる 和菓子で季節を表そう	A(2) A(3) B鑑	5
		上45	巻末資料 「水墨画の技法」	A(3) B鑑	5
2	3学期	上26・27	墨が生み出す豊かな世界 墨の表現を味わおう 季節や空気感をとらえて	A(1) A(3) B鑑	

※2・3学年については、上下巻を併用する例を掲載しています。
※ここに示した配当時間や指導計画は一例です。

年間指導計画例 第3学年三学期制

平均的な配当					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	1 学期	上32・33	転がる水	B鑑	1
		上43・44	巻末資料 「時代の流れの中で変化するデザイン」	B鑑	
上34・35		わかりやすく伝えるデザイン ピクトグラムを使ったデザイン ピクトグラムを考えよう	A(2) A(3) B鑑	3	
上36・37		「伝える」をつくる アニメーションで	A(2) A(3) B鑑	4	
上6・7		私との対話 さまざまな表現を通して	A(1) A(3) B鑑	4	
上42		巻末資料 「写真撮影の第一歩」	A(3)	3	
下16・17		新鮮な見方で 心を動かされた風景を表そう	A(1) A(3) B鑑		
上38・39	「まとめる」方法と工夫 地域紹介のリーフレットをつくる	A(2) A(3) B鑑	6		
下46・47	造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る 私のゲルニカ	A(1) A(3) B鑑	7		
下18・19	平和への願い 争いを乗り越える力を表そう	A(1) A(3) B鑑			
下36・37	アジアの新しい風 アジアの友だちの作品に触れてみよう	B鑑	1		
下40・41	文化遺産を守る アンコールの遺跡群と修復 修復家の仕事 岡本太郎の「明日の神話」	B鑑	1		
下28・29	空間の演出 ディスプレイデザイン 校内を演出してみよう	A(2) A(3) B鑑	5		

テーマを大きく絞った配列例					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4 5 6	1 学期	下2・3	オリエンテーション 社会に広がる美術 水谷孝次「メリープロジェクト」	B鑑	1
		下40・41	文化遺産を守る アンコールの遺跡群と修復 修復家の仕事 岡本太郎の「明日の神話」	B鑑	1
		上6・7	私との対話 まなざしに込められた意志	A(1) A(3) B鑑	7
		下30・31	アート・イベントに出かけよう！	B鑑	1
		1年 46・47	造形ギャラリー 環境を演出するアートたち	B鑑	1
		下26・27	街の中に息づくアート 対話を生み出す立体作品をつくろう	A(1) A(3) B鑑	7
9 10 11 12	2 学期	下16・17	新鮮な見方で 心を動かされた情景を表そう	A(1) A(3) B鑑	8
		下43～45	巻末資料 「日本美術の展開と世界との交流」	B鑑	1
		下20～21	メッセージを表す 形と色は訴える	A(2) A(3) B鑑	7
下46・47	造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る 心の葛藤を感動に変える	B鑑	1		

発展性を考え、題材を関連付けた配列例						
月	学期	関連項目	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4 5	1 学期	美術の扉	下2・3	オリエンテーション 社会に広がる美術 水谷孝次「メリープロジェクト」	B鑑	1
		イメージの力	下8・9	イメージの変容 探そう、自分の形や色	A(1) A(3) B鑑	2
			下43～45	巻末資料 「日本美術の展開と世界との交流」	B鑑	1
6 7	1 学期	自分の中の私	上6・7	私との対話 まなざしに込められた意志 さまざまな表現を通して	A(1) A(3) B鑑	7
			上8・9	投影された私 影を使って表そう 自分を何かに置き換えて	A(1) A(3) B鑑	
		下10・11	想像の世界への飛翔 想像や空想のイメージを広げて	A(1) A(3) B鑑		
9 10 11 12	2 学期	自然の中の私	下22・23	自然と共に生きる 建物をイメージした鉢植えをつくろう	A(2) A(3) B鑑	6
		社会を変える美術	下46・47	造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る ゲルニカはなぜ描かれたか	B鑑	1
		学校を変える美術	下28・29	空間の演出 ディスプレイデザイン 校内を演出してみよう	A(2) A(3) B鑑	8
下26・27	街の中に息づくアート 対話を生み出す立体作品をつくろう 身近な場所のモニュメントを考えよう		A(1) A(3) B鑑			
1 2	3 学期	扉の向こうに	下32・33	折りの形 表情に見る心の形 東西の美術に見る手の表情	B鑑	2
			下36・37	アジアの新しい風 アジアの友だちの作品に触れてみよう	B鑑	
1 2	3 学期	心をあわせて	上40・41	個性が響き合う造形 環境を生かしてつくろう	A(2) A(3) B鑑	6
		美術を守る	下40・41	文化遺産を守る アンコールの遺跡群と修復 修復家の仕事 岡本太郎の「明日の神話」	B鑑	1

「描く活動」「つくる活動」「鑑賞」のバランスを重視した配列例					
月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4 5	1 学期	下2・3	オリエンテーション 社会に広がる美術 水谷孝次「メリープロジェクト」	B鑑	1
		下14・15	版表現の豊かさ いろいろな版表現を楽しもう	A(1) A(3) B鑑	5
6 7	1 学期	下46・47	造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る 私のゲルニカ	A(1) A(3) B鑑	2
		下26・27	街の中に息づくアート 対話を生み出す立体作品をつくろう 身近な場所のモニュメントを考えよう	A(1) A(3) B鑑	7
9 10	2 学期	下20・21	メッセージを表す 廃材に新たな命を吹き込もう ありふれたものたちが…	A(1) A(3) B鑑	3
		上42	巻末資料 「写真撮影の第一歩」	A(3)	3
11 12	2 学期	上38・39	「まとめる」方法と工夫 ポスターを工夫する	A(2) A(3) B鑑	3
		下18・19	平和への願い 争いを乗り越える力を表そう	A(1) A(3) B鑑	5
1 2 3	3 学期	上32・33	転がる水	B鑑	1
		上43・44	巻末資料 「時代の流れの中で変化するデザイン」	B鑑	
		下28・29	空間の演出 ディスプレイデザイン	A(2) A(3) B鑑	1
		下24・25	感動の共有 みんなが感動する空間をつくろう	A(2) A(3) B鑑	5
		下30・31	アート・イベントに出かけよう！	B鑑	1
下38・39	受けつがれる形 受けつがれてきた美しい文様	A(2) A(3) B鑑	1		
下40・41	文化遺産を守る アンコールの遺跡群と修復 修復家の仕事 岡本太郎の「明日の神話」	B鑑	1		

※2・3学年については、上下巻を併用する例を掲載しています。
※ここに示した配当時間や指導計画は一例です。

道徳教育と主に関連するページ

学年	ページ	テーマ	具体的な取扱い内容	道徳教育の内容	
全学年	3		著作権の扱いについての注意を明記	法の遵守・権利の尊重	
1年	10	いろいろなスケッチ	ジャコモッティ「芸術家の母(編み物をする)」掲載	父母への敬愛	
	11	いろいろなスケッチ	車イス用かさのアイデアスケッチ	思いやりの心	
	14・15	自然の表情	空や風など身近な自然の美しさを認識する	自然の愛護	
	16・17	小さな生命を見つめて	身近な動物・植物を観察することで生命の尊さを認識する	生命の尊さ	
	19	顔をつくる	世界人権宣言序文の挿絵を掲載	人権の尊重	
	21	使いやすさを求めて	ユニバーサルデザインについて学ぶ	思いやりの心	
	22	遊び心	自然遺産保護のポスター、平和祈念のポスター掲載	自然の愛護・世界平和	
	36・37	「和風」を味わう	日本の伝統的な文様や造形物について理解を深める	愛国心・伝統の継承	
	38・39	アジアの多様な美術	近隣諸国の伝統文化について理解を深める	国際理解	
	44	日本の色づかい	日本の伝統色を知る	愛国心・伝統の継承	
46・47	環境を演出するアートたち	日本各地のパブリックアートを掲載し、地域社会への理解を深める	郷土愛		
2・3上	4・5	身近な人を見つめて	家族や友人など身近な人々を表現する	家族愛・友情	
	6・7	私との対話	自分自身を見つめて、今の自分を表現する	自己の向上	
	10・11	風景に思いを込めて	身近な風景を新たなイメージで表現する	自然の愛護・郷土愛	
	21	手で作る楽しみ	紅型染の紹介	伝統の継承	
	22～25	日本の美意識	日本独自の美意識について学ぶ	愛国心・伝統の継承	
	28・29	心触れ合う場	利用者のことを考えて、公共空間をデザインする	公德心	
	30・31	心に響く形や色	病院やバスなど公共の場を彩る装飾を考える	公德心	
	30・31	心に響く形や色	伝統技法の木目込によるまりの制作	伝統の継承	
	32・33	転がる水	世界で起きている問題を美術の力でどのように解決できるかを考える	人類の幸福への貢献	
	34・35	わかりやすく伝えるデザイン	情報をわかりやすく伝えるピクトグラムについて学ぶ	思いやりの心	
	36	「伝える」をつくる	ポスターなどでのメッセージの伝え方を考える	思いやりの心	
	40・41	個性が響き合う造形	友人との相互理解を深めながら、共同制作を行う	友情・相互理解・寛容の心	
	42	写真撮影の第一歩	撮影マナーについてふれる	礼儀・法の遵守	
	46・47	受けつぎつくる人の姿	日本各地の伝統工芸品と、携わる人々の働く姿を紹介する	郷土愛・勤労の尊さ	
	2・3下	18・19	平和への願い	世界平和に寄与する造形活動を行う	世界平和
		20・21	メッセージを表す	廃材などを利用した作品を掲載し、リサイクルや環境に意識ができるようにする	生きる喜び
22・23		自然と共に生きる	自然環境を考えた公共空間、間伐材を利用した作品などから自然との共生を考える	自然の愛護	
24・25		感動の共有	驚きや感動を共有できる造形活動を行う	連携の自覚・集団生活の向上	
26・27		街の中に息づくアート	公共の場を飾る立体造形を考えることで人同士のかかわりを意識する	集団生活の向上	
28・29		空間の演出	共同制作によって自分たちの学校を美しく演出する	教師や学校への敬愛	
30・31		アート・イベントに出かけよう	地域の人々と協力するアートプロジェクトの紹介	礼儀・郷土愛	
32・33		祈りの形	仏像の造形美や、西洋絵画との比較による表現の違いを学ぶ	伝統文化・国際理解	
34・35		世界を魅了したきらめき	琳派など金による日本の伝統装飾を知り、西洋絵画との比較をする	伝統文化・国際理解	
36・37		アジアの新しい風	近隣のアジア諸国の現代美術を学んだり、造形活動による国際交流を学んだりする	国際理解・寛容の心	
38・39		受けつがれる形	日本や諸外国に伝わる、自然とのつながりから生まれた造形物を鑑賞する	伝統文化・国際理解 郷土愛	
40・41		文化遺産を守る	文化遺産の修復活動のようすから、それらの価値と修復に携わる人々の努力を知る	伝統文化・勤労の尊さ	
46・47		「ゲルニカ」は語る	「ゲルニカ」の制作過程を知ることで、世界平和の大切さを確かなものとする	世界平和	

主な教科書掲載作家・作品リスト

	作家・作品名	学年	ページ
あ	青葉益輝	1	22
	秋山孝	1	22
	安座上真紀子	2・3上	18
	朝倉撰	2・3下	28
	ケノジュアク・アシエバク	2・3下	38
	阿修羅立像(興福寺)	2・3下	32
	麻生三郎	2・3上	6
	天野裕夫	1	47
	阿弥陀如来坐像(平等院)	2・3下	32
	荒川修作・マドリノ・キンズ	2・3下	24
い	アルタミラ洞くつ壁画	1	34
	ウイリアム・ヴァン・アレン	2・3上	43
	ジャン・オグスト・ドミニク・アングル	2・3下	43-45
	アンコール・ワット	2・3下	40
	安藤忠雄	2・3下	42
	イサム・ノグチ	2・3上	28
	板谷波山	1	30
	伊藤若冲	1	2・3,17
	ファブリス・イペール	1	8
	忌野清志郎	2・3上	7
う	チャールズ・イームズ レイ・イームズ	2・3上	16
	ロバート・インディアナ	1	47
	ヴィクトル・ヴァザリ	2・3下	12
	ヨゼフ・ウィルコン	2・3上	13
	アンディ・ウォーホル	2・3下	43-45
	アンテ・ヴォジュノヴィック	1	23
	歌川広重	2・3下	17
	クシュジツ・ウディチコ	2・3下	19
	ウラディミール・聖母子	2・3下	43-45
	エミリー・カー・ウングワレー	2・3下	38
え	運慶、快慶	2・3下	43-45
	M.C.エッシャー	2・3下	12
	大竹伸朗	2・3下	21
	大西重成	1	23
	大湯浩之	1	28
	尾形光琳	2・3下	35,43-45
	岡本太郎	1	47
	岡本太郎	2・3下	4,40-41
	小倉遊亀	2・3上	5
	小野田直武	2・3下	43-45
か	織部四方手鉢	1	44
	ウジェーヌ・ガイヤール	1	13
	香月泰男	2・3上	13
	A.M.カッサンドル	2・3上	43
	葛飾北斎	1	17
	葛飾北斎	2・3下	7,43-45
	狩野永徳	2・3下	43-45
	狩野山雪	2・3下	43-45
	狩野元信	2・3上	24-25
	イリヤ&エミリア・カバコフ	2・3下	31
き	アニッシュ・カプーア	2・3上	2・3
	亀倉雄策	2・3上	44
	鴨下春明	2・3下	42
	アレクサンダー・カルダー	2・3上	19
	ミゲル・カルデロン	2・3下	21
	エミール・ガレ	2・3上	16
	川内倫子	1	40
	川瀬巴水	2・3下	14
	喜多川歌麿	2・3下	43-45
	きたむらさとし	1	26
く	絹谷幸二	1	47
	玉潤	2・3上	26
	金閣(鹿苑寺)	2・3下	43-45
	草間彌生	2・3下	4
	熊田千佳慕	1	17
	トニー・クラッグ	2・3上	9
	倉俣史朗	1	11
	グスタフ・クリムト	2・3下	35
	エミリオ・グレコ	1	46
	チャック・クロース	2・3上	7
け	黒田清輝	2・3下	43-45
	フランク・オーウェン・ゲリー	1	47
	源氏物語絵巻 柏木 三	2・3下	43-45
	アンディ・ゴールズワージー	1	4
	レム・コールハース	2・3上	44

	作家・作品名	学年	ページ
こ	フィンセント・ファン・ゴッホ	2・3上・下	6,17
	コロッセオ	2・3下	43-45
	エーロ・サーリネン	2・3下	27
	オシップ・ザツキン	2・3下	19
	エンリク・サトゥエー	2・3上	38
	佐藤可士和	1	25
	佐藤卓	1	25
	佐藤忠良	2・3上	4
	佐藤正明	2・3下	13
	サモトラケのニケ	2・3下	43-45
さ	柴川敏之	1	35
	島添昭義	1	18
	釈迦三尊像(法隆寺)	2・3下	43-45
	アルベルト・ジャコモッティ	1	10
	ジャコメッティの彫刻 50のワザ	2・3下	43-45
	十一面観音菩薩像(聖林寺)	2・3下	33
	アレキサンダー・ジラルド	1	18
	新宮晋	1	15
	杉浦非水	2・3上	38
	鈴木康広	2・3下	24
せ	フィリップ・スタルク	2・3上	16
	関根伸夫	2・3下	26
	リアン・セコン	2・3下	30
	雪舟等楊	2・3上・下	26,43-45
	芹沢桂介	1	44
	仙厓義梵	2・3上	27
	千利休	2・3上	25
	レオナルド・ダ・ヴィンチ	1	10
	レオナルド・ダ・ヴィンチ	2・3下	43-45
	ジム・ダイン	2・3上	9
た	高松次郎	2・3上	8
	高松塚古墳 西壁 女子群像	1	5
	多田美波	1	46
	田中一光	1	44
	田沼武能	2・3下	16
	サルヴァトーレ・ダリ	2・3下	11
	俄屋宗達	2・3下	34
	崔正化	1	47
	フセイン・チャラヤン	2・3上	15
	鳥獣人物戯画巻	2・3上	37
ち	長次郎	2・3上	25
	塚本カナエ	1	20
	椿昇 室井尚	2・3下	30
	ジュリー・テイモア	2・3上	14
	ボウワー・デーヴィー	2・3下	36
	手塚治虫	2・3上下	37,43-45
	アルブレヒト・デュラー	1	16
	照屋勇賢	2・3下	18
	東郷青児	2・3下	41
	エドガー・ドガ	2・3下	6
つ	殿敷侃	2・3下	21
	富本憲吉	1	13
	豊福知徳	1	47
	鳥毛立女屏風	2・3下	43-45
	ミロスラフ・トレイトナル	2・3上	21
	ドン・チャドウィック ビル・スタンプ	2・3上	44
	長尾昌枝	2・3上	18
	野々村仁清	2・3下	34
	ハート型土偶	2・3下	43-45
	ジェニファー・バートレット	1	8
て	長谷川等伯	2・3下	34
	クヴィエタ・バツオウスカー	1	43
	ジャコモ・バッラ	2・3下	6
	埴輪 弾琴男子	2・3下	43-45
	濱田庄司	1	30
	速水御舟	2・3下	43-45
	シュテファン・バルケンホール	2・3上	12
	阪東勲	1	19
	ヴェルナー・パントン	2・3上	44
	東山魁夷	2・3上下	11,43-45
な	バプロ・ピカソ	2・3上下	4,46-47
	桧原由比子	2・3下	29
	ダニエル・ビュラン	2・3下	30
	エリック・ファイファー	2・3上	16
	ヨハネス・フェルメール	2・3上	10

	作家・作品名	学年	ページ
ふ	ジャン・ミシェル・フオロン	1	19
	福田繁雄	1	24
	福田繁雄	2・3下	18
	藤城清治	1	7
	藤田嗣治	2・3下	43-45
	船越次郎	2・3下	42
	ジャン・オノレ・フラゴナール	2・3下	43-45
	サム・フランシス	1	45
	マルセル・プロイヤー	2・3上	43
	カール・ブロスフェルト	1	12
へ	フンデルトヴァッサー	2・3下	22
	パーバラ・ヘップワース	2・3上	12
	ポール・ヘニングセン	1	13
	ポール・ヘニングセン	2・3上	43
	デイヴィッド・ホックニー	2・3下	14
	堀木エリ子	2・3上	23
	眞板雅文	1	46
	ルネ・マグリット	2・3下	10
	松林桂月	2・3上	27
	アンリ・マティス	2・3下	8
ほ	エティエンヌ・ジュール・マレー	2・3下	6
	ジャコモ・マンゾー	2・3上	12
	メアリー・アン・E・ミアーズ	2・3下	26
	三尾公三	2・3上	8
	ミケランジェロ・ブオナローティ	2・3下	33,43-45
	水谷孝次	2・3下	2・3
	南桂子	2・3下	14
	アルフォンス・ミュシャ	2・3上	43
	ジャン・フランソワ・ミレー	1	14
	ジョアン・ミロ	1	18
ま	弥勒菩薩半跏思惟像(法隆寺)	2・3下	43-45
	村山明	1	28
	元永定正	2・3上	37
	クロード・モネ	1	40-41
	クロード・モネ	2・3下	43-45
	森口華弘	1	36
	ウィリアム・モリス	1	13
	ウィリアム・モリス	2・3上	43
	森正洋	1	20
	ピエト・モンドリアン	2・3下	9
み	安田侃	1	46
	安田侃	2・3下	26
	柳宗理	2・3上	44
	山城隆一	2・3上	44
	山本正道	1	46
	U. G. サトー	1	22
	有翼人面雄牛像	2・3下	43-45
	夢殿(法隆寺)	2・3下	43-45
	横尾忠則	2・3上	11
	淀川テクニク	2・3下	20
む	ラスコー洞くつ壁画	1	34
	ルネ・ラリック	1	13
	ヘリット・トーマス・リットフェルト	2・3上	43
	マイケル・リン	2・3下	36
	ル・コルビュジェ	2・3上	44
	ジョルジュ・ルース	2・3下	13
	ピーテル・パウル・ルーベンス	2・3下	43-45
	レイモンド・ローウィ	2・3上	43
	アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	2・3下	43-45
	クロード・ワイズバッシュ	2・3下	6
も	渡邊良重	1	26
	渡辺力	1	20